

東北環境パートナーシップオフィス

運営第 5 期

令和 3 年度 事業実施報告書

運営第 5 期：平成 31 年度（令和元年度／2019 年度）
～令和 3 年度（2021 年度）



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD 活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

目次

I .EPO 東北 運営第 5 期総括

1. 運営期と主な出来事	P5
2. EPO 東北事業の変遷	P6
3. 情報発信の記録	P10
4. 第 2 期～第 4 期 運営期ごとの総括	P14
5. 第 5 期 総括	P17

II . 事業計画

1. 運営第 5 期 中期事業計画	P21
2. 令和 3 年度 事業計画	P22
3. 令和 3 年度 事業予定一覧	P26

III . 事業報告

1. 出張・外出のべ日数	P29
2. 事業実施一覧	P30
3. 事業実施報告	P32

(1) EPO 東北業務

1) 事業検討委員会の運営等	P32
2) 基本業務	P32

- ① Web サイト等を活用した情報発信、PR
- ② 相談対応、対話の場作り及び過去案件のフォローアップ
- ③ 全国事業に関わる業務
- ④ 施設の維持・管理

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務

① 地域プラットフォームの環境整備支援等業務	P36
------------------------	-----

- ① -1. 環境整備のプロセスに係る支援
- ① -2. 意見交換会の支援業務
- ① -3. 環境省及び GEOC が主催する会議等への出席
- ① -4. 支援チーム派遣団体の活動情報の共有

② 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	P42
-----------------------	-----

- ② -1. 環境学習施設等職員における情報交換会等の開催
- ② -2. パートナースhip団体情報交換会

③ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	P44
-------------------------	-----

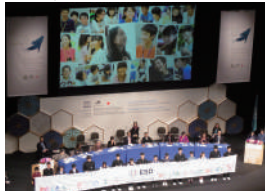
- ③ -1 情報交換会等の開催
- ③ -2 事業検討会議への参加

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	P46
-------------------------	-----

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務	
1) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等	P47
2) ESD 活動に関する相談・支援窓口	P47
3) ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供	P49
4) 地域 ESD 拠点の登録及び支援	P50
5) 全国センターとの連携協力の推進等	P50
6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会提供	P53
7) 東北 ESD/SDGs フォーラムの開催	P57
8) ESD 推進地域研修（学習会）の開催	P60
9) その他	P61
(3) 東北地方環境事務所との協働	P61
(4) その他 企業等との協働事業	
1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携	P61
2) GreenGift 地球元気プログラム	P62
3) 青森県 令和3年度環境配慮行動拡大モデル事業	P64

I .EPO 東北 運営第 5 期総括

I -1. 運営期と主な出来事

期	運営団体	年度	主な出来事	
			EPO 東北 主な出来事	社会の出来事
第 1 期	NPO 法人 水環境ネット 東北	平成 18 年度 (2006)	EPO 東北 開設	国連 ESD の 10 年 (2005～2014 年)
		平成 19 年度 (2007)		
		平成 20 年度 (2008)		
		平成 21 年度 (2009)		
第 2 期	公益財団法人 みやぎ・ 環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	平成 22 年度 (2010)	・生物多様性条約第 10 回締約国会議 生物多様性交流フェアブース出展	・愛知目標 (2011～2020 年) ・東日本大震災 (2011/3/11)
		平成 23 年度 (2011)	・「3.11 あの時」ヒアリングスタート 	・国連生物多様性の 10 年 (2011～2020 年) 
		平成 24 年度 (2012)	・「3.11 あの時」レポート冊子化 ・伴走支援型事業「環境 NPO 等ビジ ネスモデル策定事業」(H24～25)	・国連持続可能な開発会議
第 3 期		平成 25 年度 (2013)	・伴走支援型事業「協働取組の加速化 事業」(H25～H29)	・三陸復興国立公園の創設と東北海岸 トレイルの開通
		平成 26 年度 (2014)	・EPO 東北オフィス移転 ・みちのく薪びと祭り開催 (H26～R 元年) 	・ESD ユネスコ世界会議 (愛知県) ・グローバル・アクション・プログラ ム (GAP) (2015～2019 年) 
		平成 27 年度 (2015)	・「3.11 あの時」事例集発行	・持続可能な開発目標 (SDGs) 採択 ・パリ協定 採択
第 4 期		平成 28 年度 (2016)	・地方 ESD 活動支援センター設置に向 けた体制整備等検討業務	・ESD 国内実施計画策定 ・ESD 活動支援センター 開設
		平成 29 年度 (2017)	・東北地方 ESD 活動支援センター開設 	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 
		平成 30 年度 (2018)	・伴走支援型事業「環境課題と社会課 題の同時解決事業」(H30～R1)	・第 5 次環境基本計画で「地域循環共 生圏」提唱
第 5 期		令和元年度 (2019)	・みちのく薪びと祭り東北一巡達成	・新型コロナウイルスが世界中で広が る
		令和 2 年度 (2020)	・伴走支援型事業「地域循環共生圏プ ラットフォームづくり事業」(R2～3) ・オンライン会議／催事の開催	・ESD for 2030 (2020～2030 年) ・新学習指導要領スタート (小学校) ・政府が 2050 年までにカーボン ニュートラルを目指すことを宣言
		令和 3 年度 (2021)	・ESD for 2030 学び合いプロジェク ト	・第 2 期 ESD 国内実施計画策定 ・「グラスゴー気候合意」採択

I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

EPO 東北
独自事業

主催型

シンポジウム
フォーラム

交流会型事業へ

再生可能エネルギー交流会



再生可能エネルギー交流会①②



東日本大震災対応

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

- ・ 1 週間閉館／スタッフ自宅待機
- ・ 3/22 ～出勤
 - 各家庭の状況確認
 - 事務局体制、勤務について協議
 - 東北地方環境事務所と対応協議



現場踏査・ヒアリング

- ・ Web サイト特設ページ開設
- ・ 3.11 からの学びの記録・発信



継続

冊子化①



環境省伴走支援事業、他

COP10
生物多様性交流フェア
ブース展示



復興支援活動のマッチング
グリーンサンタ®
被災小学校・幼稚園訪問



環境 NPO 等
ビジネスモデル策定事業

【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議
【宮城】NPO 法人日本の森
バイオマスネットワーク



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

EPO東北
独自事業

事業連携の模索

地域開催型へ

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

みちのく薪びと祭り

第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

再生可能エネルギー交流会 in 福岡

再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 宮城

中間支援組織交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 関東



東日本大震災対応

現場踏査・ヒアリング

冊子化②



追加ヒアリング

冊子化③



事例集

「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」



EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



環境省伴走支援事業、他

【岩手】(株) 紬
【宮城】(一社) チガノウラカゼコミュニティ

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】(一社) 持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



事例集



地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】(一社) 白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】(一社) あきた地球環境会議



I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 4 期

	H28 (2016) 年度	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度
EPO 東北 独自事業	協働の実践 みちのく薪びと祭り ● 第 3 回 in 福島みなみあいづ EPO 間連携 ● 中間支援組織交流会 in 四国	協働型の交流会開催へ ● 第 4 回 in 宮城なるこ	● 第 5 回 in 秋田梅内 ビジターセンター交流会 第 1 回 in 仙台 第 2 回 in 網張ビジターセンター
			
東北 ESD センター	地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務 	東北地方 ESD 活動支援センター ・ 7/3 開設 ・ 東北 ESD フォーラム 2018(仙台) 	東北 ESD フォーラム in 岩手 
			
東日本大震災対応	EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業 ● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知 	● ESD 学びあいフォーラム in 中部 	● ESD 学びあいフォーラム in 愛知 
			
環境省伴走支援事業	地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業 【秋田】(一社)あきた地球環境会議 【山形】三瀬地区自治会 環境教育における「ESD 推進」のための先導的取組調査・実践拠点支援事業 【青森】NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター 【岩手】マイムマイム奥州	【山形】三瀬地区自治会  環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業 【青森】NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター 【秋田】(一社)あきた地球環境会議	SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業 【山形】三瀬地区自治会  【秋田】(一社)あきた地球環境会議
			

運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

リソースの活用

ネットワーク型の事業展開

みちのく薪びと祭り

第6回 in 青森おおわに

薪びと祭りキーパーソン会議 in 芸北

薪びと祭りキーパーソン会議 in 鳴子

EPO 間連携

第3回 in 名取トレイルセンター

中止

第4回 in 裏磐梯ビジターセンター

第5回オンライン開催

ビジターセンター交流会



EPO東北
独自事業

東北ESDセンター

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森



- ・東北 ESD/SDGs フォーラム 2020 YouTube 配信
- ・ESD 推進・地域研修会 in 青森

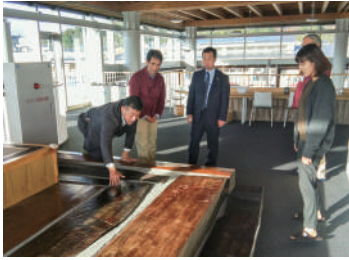


- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in あおもり 《ハイブリット開催》
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト



東日本大震災対応

- ・福島ヒアリング



- ・福島ヒアリング

大震災から 10 年

新型コロナウイルス感染症の流行

- 第1波 3～5月【緊急事態宣言（1回目）】
- 第2波 7～8月
- 第3波 11～3月【緊急事態宣言（2回目）】

- ・執務室・会議室の感染予防対策実施
- ・会議室貸出ガイドラインの作成
- ・オンライン会議／催事の実施
- ・感染状況に応じて出張・外出、対面打合せの自粛

- 第4波 3～4月【緊急事態宣言（3回目）】
※変異ウイルス（アルファ株）
- 第5波 7～9月【緊急事態宣言（4回目）】
※変異ウイルス（デルタ株）
- 第6波 1～3月
※変異ウイルス（オミクロン株）

2020/1/14 WHO 新型コロナウイルスを確認
1/16 日本国内で初めて感染確認

環境省伴走支援事業

【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施

地域循環共生圏プラットフォーム支援等業務

- 【宮城】（一社）Reborn-Art Festival
（リボン・アート・フェスティバル）
- 【山形】三瀬地区自治会



地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

- ・ESG 金融フォーラム in 岩手

《事業化支援》

【宮城】（一社）Reborn-Art Festival

《環境整備》

【青森】NPO 法人循環型社会創造ネットワーク

【山形】三瀬地区自治会

【山形】米沢市



- ・ESG 金融シンポジウム in 秋田

I -3. 情報発信の記録

運営第2期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

ウェブサイト等

環境の整備
情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン
(月1回+増刊号)
- リーフレット
- 封筒

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

【緊急対応】
Web-site
3/17 閉館のお知らせ掲載
3/24 ~ 震災対応に関する
お知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ
→常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年2回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16 (2012年11月号) ~
特集面をEPO 東北の取り組み紹介
ページに変更

冊子等

ESD テキストブック
パートⅡ
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011 年版



運営第3期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

- ・リーフレット改訂
- ・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



- ・3.11 あの時 2015 年版
レポート配信開始



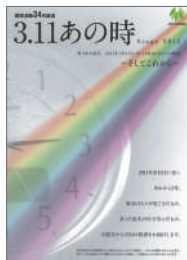
機関誌

- ・特集面を取材記事の掲載に変更



冊子等

3.11 あの時
2012 年版



◆ 3.11 あの時
2011 年版 増刷

3.11 あの時
2013 年版



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14 のチャレンジ～

3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1 年間の後方支援
活動の記録—

EPO 東北 6 年間の
運営業務 総括
運営第 2 期～第 3 期



I -3. 情報発信の記録

運営第 4 期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

ウェブサイト等

東北地方 ESD 活動支援センター
 ・ウェブサイト開設 (9/1)
 ・リーフレット作成
 ・封筒改定



機関誌

・表紙をマイナーチェンジ
 ・東北 6 県トピックス
 デザイン変更



・特集面を寄稿記事に変更



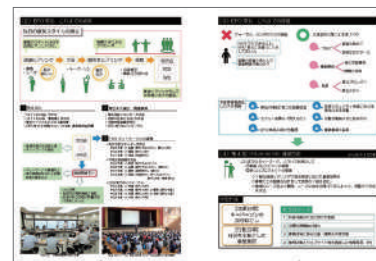
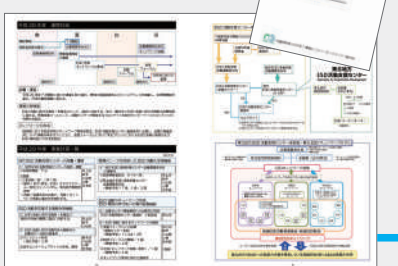
冊子等

3.11 あの時
 教訓事例集

EPO 東北
 業務報告書の
 ビジュアル化



東北ESDセンター
 業務報告書の
 ビジュアル化



運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル（9月配信号から）
EPO 東北、東北 ESD センターからの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北 ESD センターのリーフレットを一本化



EPO 東北ウェブサイト

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴うシステム全般の改修
- ・サイトリニューアル（レスポンス対応）

東北 ESD センターウェブサイト

- ・全国センターへ更新依頼を行う体制から、東北 ESD センター内で更新作業ができる体制への移行

メールマガジン

- ・レンタルサーバーのPHPバージョンアップに伴いメールマガジン配信に不具合が発生（11月）
- ・配信システムの見直し

オンライン会議 / 催事対応

- ・Web 会議システム、機材の導入



メールマガジン

- ・配信システムの外部サービス利用開始

オンライン会議 / 催事対応

- ・機材の追加整備
- ・催事での配信業務の外部委託

機関誌

EPO 東北、東北地方 ESD 活動支援センター PR ツールとして機関誌の位置づけを見直し

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→ 16 ページへ
- ・年 2 回発行→年 1 回発行へ



冊子等

SDGs 紹介チラシの作成



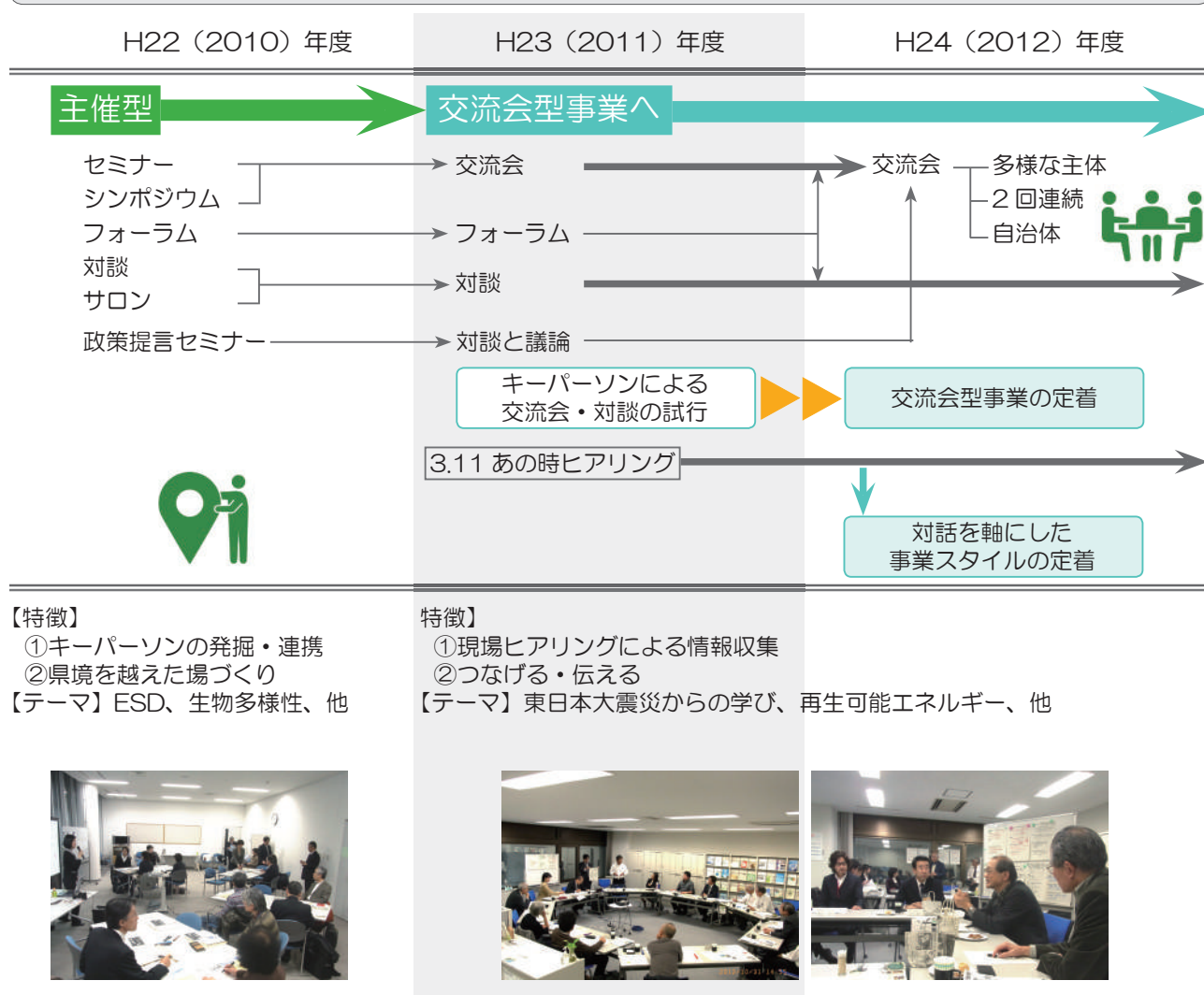
SDGs 紹介子ども向けチラシの作成



業務報告書の一本化

I -4. 第2期～第4期 運営期ごとの総括

運営第2期



【成果】

- 訪問ヒアリングを軸とした事業スタイルの確立
 - ・東日本大震災後に取り組んだ「3.11 あの時ヒアリング」をきっかけに、訪問して丁寧に現場の声に耳を傾けること、その中で地域の課題やニーズを把握することに注力した。
 - ・ヒアリングで得た情報をもとに事業の企画へとつなげることができた。
- ネットワークを広げ、県境を越えて地域課題を議論する場を設けた
 - ・不測の事態の中で試行錯誤を重ね、EPO 東北のネットワークを広げながら情報を記録・発信し、議論の場を設けた。
 - ・県境を越えたゆるやかなネットワークを形成した。
 - ・互いに学び合いながら議論を深め、参加者が地域に議論を持ち帰ることによって、地域の活動の活性化や波及を期待する交流会型事業が定着した。

【課題】

- ▲協働の推進手法の模索
 - ・初年度は催事主催型の事業を実施したため、「NPOでもできることではない事業をしてほしい」「協働の推進手法として催事開催が適当か」との指摘を受けた。
 - ・多様な主体をつなぎ、協働を推進する、または協働の場作りをする事業には至らなかった。
- ▲「つなげる」役割について EPO は何ができるか 整理・検討
 - ・環境政策に係る支援において政策提言の手法を学ぶ NPO 向けセミナーや、対談型の学習の機会、自治体担当者を対象とした意見交換の場を設けたが、場の提供に留まり事業の発展には至らなかった。
 - ・3ヶ年の取組みおよび成果の体系的な整理が不十分だった。

運営第3期

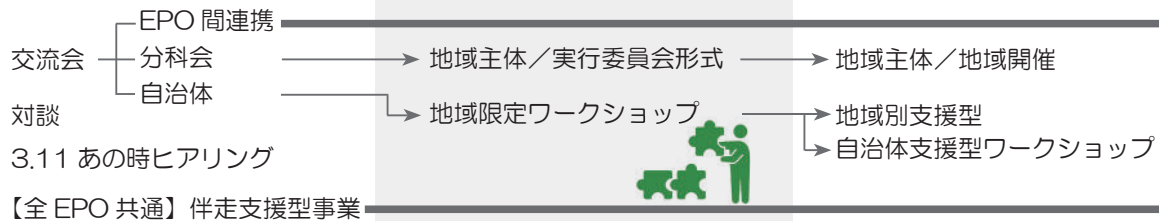
H25（2013）年度

H26（2014）年度

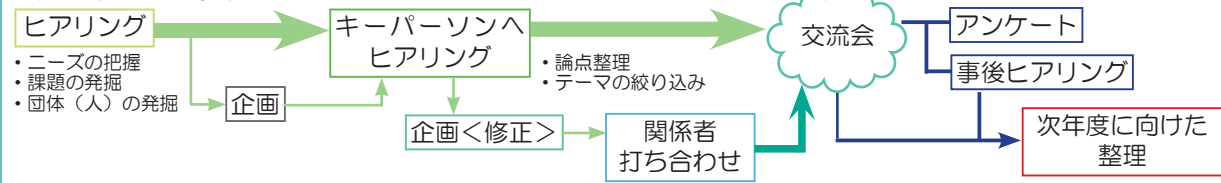
H27（2015）年度

事業連携の模索

地域開催型へ



【対話を軸にした事業スタイル】



【特徴】

- ① EPO 間連携による 3.11 からの学びの発信
 - ② 現場のニーズに寄り添った交流会
- 【テーマ】主体を巻き込んだ発展性のある対話の場づくり



【特徴】

- ① EPO 間連携による交流会実施
 - ② 現場の主体と連携した企画
- 【テーマ】3.11 からの学びの発信、新たな協働の試み



【特徴】

- ① EPO 間連携による交流会実施
 - ② 地域別のニーズに応じた事業
- 【テーマ】「東北ならではの」発信・とりまとめ、具体性・実行性のある対話の支援



【成果】

- 3.11 からの学びを東北外へ発信
 - ・EPO 間連携による再生可能エネルギー交流会や中間支援組織交流会、児童・生徒向けの ESD 学びあいフォーラムを開催した。
 - ・再生可能エネルギー交流会は広島、福岡、四国地方で、中間支援組織交流会は広島、関東地方で、ESD 学びあいフォーラムは沖縄、愛知で開催した。東北の学びを題材に地域のキーパーソンとの議論を深め、その後の活動変容に資することができた。
- 地域の主体を巻き込んだ対話の場作り
 - ・県境を越えて地域課題を議論する場を設けた
 - ・丁寧なヒアリングを実施することでネットワークを広げ、企画運営の主体を地域の団体が担うスタイルの事業実施に至った。
 - ・ゆるやかな東北ネットワークが生まれ、地域にも活力が生まれるきっかけとなった。

【課題】

- ▲ EPO 東北のあり方整理
 - ・運営第2期と比べて事業の実施手法が大きく変化した。県境を越えて多様なセクターと情報や連携をつなぐ「ハブ」としての機能が求められており、東北の特性に応じた協働促進の模索が求められる。
 - ・参加者が主体的に関わる協働の場作りには至らなかった。
 - ・政策コミュニケーション支援において、実効のある活動には至らなかった。
- ▲ 『東北モデル』と成果の「見える化」
 - ・交流会型事業により、ネットワークの広がりやキーパーソンとの関係構築、事業実施後の地域へのアウトカム等、さまざまな変革促進が起きているが、これらの整理・分析ができていない。
 - ・参加団体や実施地域へのアウトカムについて全容を把握できておらず、事業実施後のフォローアップが課題である。

I -4. 第2期～第4期 運営期ごとの総括

運営第4期



【成果】

- これまでのノウハウを活用した新たな交流会事業の実施
 - ・運営第3期までのノウハウを活かし、新たなテーマで交流会事業を実施した。ケーススタディから協働を学ぶ研修会など新しいアプローチの企画にも取り組み、これまで連携の機会のなかった主体とのつながりを得ることができた。
 - ・交流会事業においては「協働の模索」を念頭に事業を企画し、関係者の主体性を引き出しアプローチを行なった。関係者との対話を重ね、役割分担のもとで交流会を開催することができた。
- 東北地方 ESD 活動支援センター機能の向上
 - ・東北地方における ESD ネットワーク形成を目指し、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムとの連携に取り組み、教育系ネットワークが拡大した。
 - ・開設2年目には ESD フォーラムを岩手県で開催し、実行委員会形式による協働モデルを創出することができた。開催後も活動が継続するしかけに留意し、関係者が主体性を持って能動的に関わってもらうことの重要性を再確認した。

【課題】

- ▲中間支援機能の強化
 - ・東北地方 ESD 活動支援センターの開設から2年が経過したが、EPO 東北のネットワークをベースとした事業展開に留まっており、これまで以上に分野を越えた連携をつなぐ橋渡しの役割が期待される。教育分野、行政、企業、金融機関等、重層的なネットワーク形成が課題である。
 - ・多様なセクターとの連携、協働の機会の創出など、中間支援組織としてネットワークおよび事務局のスキルを含め、機能強化が求められる。
- ▲2つの事業の連動と業務の効率化
 - ・運営においては試行錯誤を重ねたが、全体的な業務量が増加したことにより、EPO 東北がネットワーク構築のために大事にしてきた対面による情報収集の機会が減った。事業の整理、業務の効率化の検討が課題である。
 - ・これまで EPO 東北でも ESD をテーマとした事業を展開してきており、東北地方 ESD 活動支援センター事業との連動性が考えられる。改めて課題を整理し、運営5期の3年間でどこまで達成するか、戦略的な中期計画の策定が求められる。

運営第5期



I -5. 第5期 総括

運営第5期は、これまでに培ったノウハウとリソースを活かして全国のEPO共通事業、EPO東北独自事業に取り組む中期計画を立てた。これまでと同様に関係者との対話に重きを置いて、ニーズやウォンツ、地域の課題の把握に努めることを大きな方針とした。また運営体制の見直しを図り、EPO東北事業運営委員会と東北地方ESD活動支援センター企画運営委員会を同日開催とし、委員とともに事業の成果と課題を振り返り、次に向けた整理とアイデアを議論する会議を目指した。事業の企画においてはその後の事業展開を念頭において、地域のステークホルダーの参画を促すことに留意した。

1年目（H31（R1）/2019年度）は計画通り事業に取り組んだが、2月末以降、新型コロナウイルス感染症が国内でも急速に広がった。2年目（R2/2020年）の4月には緊急事態宣言が出され、事業の見通しが立たない状況が続いた。EPO東北が事業の軸に据えてきた対面によるヒアリングや交流会型の事業実施は自粛せざるを得ない状況となり、オンライン型の会議・催事開催の試行錯誤を重ねた。遠方の方は移動時間を気にせずリモートで会議に参加できる、担当者以外のスタッフも一緒に会議に参加できる、アーカイブで議論を共有できるなどのメリットがあり、一定の成果を得ることができた。一方で要点を簡潔に話すため、議論が広がらない傾向がみられた。互いに手探りの状況でもあり、対面によるヒアリングと同じように関係者とコミュニケーションを深められないデメリットがあり、事業実施の手法や事業展開の方向性が大きな課題となった。

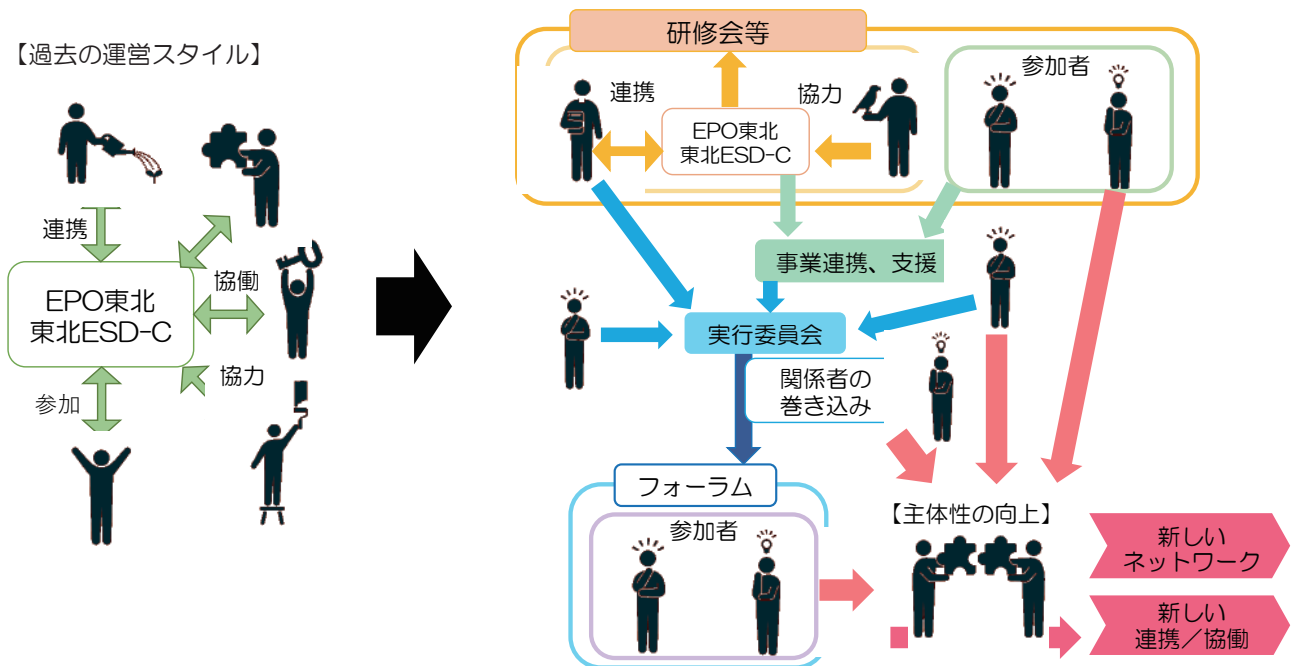
オンライン、ハイブリット型の催事では、専門家の協力を得て一方的な配信ではない新たなスタイルを生み出すことができた。場面転換の時間を利用してCM動画を配信する試みにおいては、東北各地の多様なセクターの関係者から協力を得ることができ、重層的なネットワークの広がりを感じることができた。オンライン配信によって東北以外の地域からも参加があり、特に視聴者目線の企画運営に好評を得た。

運営第5期はこれまでと同様の事業展開ができない事態になった一方で、運営第2期からつなげてきたネットワークが礎となり、さまざまな事業の実施につなげることができた。これまで課題としてきた重層的なネットワークが広がりつつあり、「点」から「面」への広がり、ネットワークの連鎖が起きている。

運営第6期も丁寧に地域と向き合い、人や組織、情報、ネットワークをつなげていくことが求められる。今後も状況に合わせて対面、オンライン、ハイブリット型の使い分けが想定されることから、オンラインの利点を活かした新しい事業スタイルの模索が課題となる。また、脱炭素に向けた動きが加速化しており、新たなテーマを視点に取り入れた事業展開が見込まれる。EPO東北、東北地方ESD活動支援センターの2つの事業を運営していくために、事務局の体制や円滑な事業運営のための工夫、外部との連携など、時代に合わせたスキルアップと改善が課題となる。

【第5期の運営スタイル】
リソースの活用
ネットワーク型の事業展開

【過去の運営スタイル】



運営第5期

令和元年～3年度（2019～2021年度）

令和3年度事業計画

Ⅱ -1. 運営第5期 中期事業計画

課題

東北ならではの

- ・東北ならではの環境活動の促進
- ・東北らしい協働事例の創出

中間支援機能の強化

- ・1 団体ではできないことの支援
- ・異分野の橋渡し

業務の効率化

- ・EPO 東北業務と東北 ESD センター業務

期待される役割

情報提供

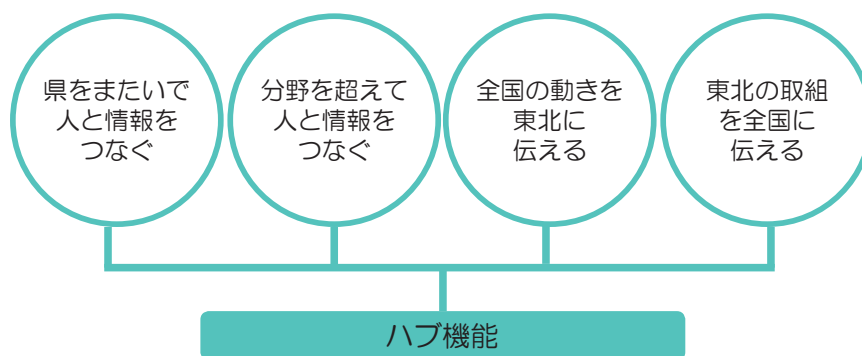
- ・東北の取組み事例の発信
- ・他の取組み事例の情報提供

協働の実践

- ・東北×他ブロックの広域連携
- ・活動の具体的な支援

場づくり

- ・相互交流と学びあいの場づくり



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



**東北地方
ESD 活動支援センター**
Education for Sustainable Development

EPO 共通の事業

- 伴走型支援業務
 - ・同時解決事業
- 環境政策に係る支援等

EPO 東北オリジナル事業

- 交流会型事業
 - ・みちのく薪びと祭り
 - ・ビジターセンター交流会
- 東日本大震災
 - ・学びの発信

東北 ESD センター事業

- プラットフォームの形成
 - ・東北 ESD フォーラム
 - ・ESD ネットワーク会議
- ESD 活動への支援
 - ・講師・人材の派遣
 - ・事業の共催・協力・支援
 - ・広域連携による相互交流

行動目標

対話を主軸とした事業展開

Face to Face による関係者とのコミュニケーションに重きを置いて、各事業を展開する。対話の中でニーズやウォンツ、地域の課題の把握に努め、企画の参考とする。

運営目標

「アイデアを広げる」会議体制の構築

各会議の運営手法を見直し、委員と共に事業の成果、課題を振り返り、次に向けた整理とアイデアを議論するフレキシブルな会議体制を構築する。

成果目標

東北モデルの創出

運営第1期～4期にかけて、行政や企業との連携が課題となってきた。運営第5期では新たなステークホルダーを加えたネットワークの拡充を目指し、多様な主体との事業連携・協働を進め、東北モデルを創出する。

Ⅱ - 2. 令和 3 年度 事業計画

業務の目的

本業務は、EPO 東北が「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（以下、「環境教育等促進法」と記載。）」の規定する国の役割を果たすため、東北 ESD センターが「ESD 国内実施計画」等を踏まえた役割を果たすため、全国の EPO、地球環境パートナーシッププラザ及び ESD 活動支援センター（全国及び地方）のネットワークを活用するとともに、東北地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO／NGO、行政、企業等及び社会を構成する様々な主体による協働、連携の取組みを広げ、効果的かつ効率的に、環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及び ESD 活動等を活性化させることを目的とする。

加えて、「第 5 次環境基本計画（平成 30 年 4 月閣議決定）」では、今後の環境政策において、経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からイノベーションの創出や経済、社会的な課題の同時解決を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととしている。その中で、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地域を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこととする。

業務の内容

EPO 東北運営業務

様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業等との連携を確保しながら、持続可能な社会の実現に向け、環境教育等促進法の拠点であることを念頭に、地域循環共生圏創造の推進、拠点間連携による地域内の中間支援等に係る各種業務を行うとともに、これらの活動状況等は EPO 東北のウェブサイトやメールマガジン等を活用して発信する。

(1) 事業検討委員会の開催運営等

本業務の実施にあたっては、幅広い知見から意見を聴取する必要があることから、NPO、行政及び企業等の関係者からなる「EPO 東北事業検討委員会」を設置のうえ会議を 2 回程度開催し、事業実施計画（案）等について議論するとともに、EPO 東北のコンセプトや役割を含めた基本的な方向性を検討する。

(2) 基本業務

1) ウェブサイト等を活用した情報発信、PR

EPO 東北のウェブサイトを活用し、イベント情報のほか、関係機関の動向、公募や助成金情報等を東北地方内外に発信する。また、広報誌の作成やメールマガジンの活用による情報発信も行う。

2) 相談対応、対話の場づくり及び過去案件のフォローアップ

環境教育等促進法第 19 条第 1 項に基づく国の拠点として、各種情報紹介及び相談への対応、必要に応じた助言を行うとともに、各種会合へ参加するなどして情報収集を行う。また、必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件についてのフォローアップを行う。

3) 全国事業に関わる業務

各地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的とした全国 EPO 連絡会議及び各業務の進行管理や連絡調整の目的で開催される会合等に必要に応じて出席する。

- ・全国 EPO 連絡会議
- ・連絡調整会議

4) 施設の維持及び管理

EPO 東北の施設等を維持及び管理するために必要な業務を行うとともに、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、オフィス内の定期的な換気や除菌処理などを行う。また、民間団体等が環境保全に関する情報交換や交流を図るため、会議スペースの供用、他団体の発行する機関誌等の配布、関連図書の貸出等を行う。会議スペースの供用にあたっては、国や宮城県が発信するコロナ感染症に関する情報を基に、供用の中止または制限を検討し、担当官と相談の上、結果をウェブサイトで公表する。

(3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

環境整備のプロセスに係る支援として、構想策定や事業計画策定、ステークホルダーの組織化の各過程に応じた伴走支援を行う。年度当初に採択団体へヒアリングを行い、支援計画を作成の上で支援に取り組む。

※伴走支援の内容

- ・関係者との調整支援
- ・会議運営にかかる助言
- ・人材育成の支援、採択団体がマングラ作成を通じて行う課題整理及び協働取組の各過程の支援
- ・事業発掘のプロセス支援

2) 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会の支援業務

採択団体が行う環境整備を推進するため、採択団体が開催する意見交換会の後方支援や当日の運営を担う。企画内容については東北地方環境事務所担当官を通じて環境省環境計画課担当官と調整を行う。

3) 環境省及び GEOC が主催する会議等への出席

環境省及び GEOC が主催する地域循環共生圏の支援に向けた成果報告会、GEOC が主催する情報交換会、中間報告会、作業部会、共有会及びブロック別共有会に参加する。成果報告会、情報交換会及び中間報告会に向けては、採択団体の資料作成等を支援し、当日の意見交換を補佐する。

会議名	参加主体		
	採択団体	地方 環境事務所	EPO
情報交換会（6月）	○	○	○
中間報告会（11月）	○	○	○
成果報告会（3月）	○	○	○
作業部会（2回）			○
共有会（3回）		○	○
ブロック別共有会（1回）		○	○

《採択団体の作成資料》

- ・地域の構想を書き示したコンセプトペーパー（マングラ）
- ・ステークホルダーリスト
- ・地域の構想の核となる事業の概要（事業のタネシート）
- ・地域における取組みの成果を測定する指標案（目標シート）

4) 支援チーム派遣団体の活動情報の共有

地域循環共生圏全国事務局が派遣する支援チームに派遣に関して、その進捗状況を把握するとともに、同事務局請負者の求めに応じ制度設計に助言する。

5) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

地域循環共生圏の国民運動である森里川海プロジェクトの推進のため、自然の恵みを引き出し、経済性を伴ってまわる仕組みづくりとそれを支えるライフスタイルへの変革の機運を醸成するため、地域の一次及び三次産業、さらに地域の自治体や企業、金融機関等を巻き込んだ情報交換会を開催する。

①環境学習施設等職員における情報交換会等の開催

森里川海をテーマとした普及啓発や情報発信等について、管内のビジターセンターや自治体等を対象に情報交換会を開催し、生物多様性に関する普及啓発や情報発信等の強化を図るとともに施設間の連携を促進する。

②パートナーシップ団体情報交換会等の開催

地域の窓口となるパートナーシップ団体^{*}等を対象に、森里川海と地域経済を繋ぐことをテーマとした講演及び事例紹介等を含めた情報交換会を開催し、多様な主体との連携の促進を図る。

※パートナーシップ団体

EPO 東北では円滑に事業を推進するために、東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。

【青森県】NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
【岩手県】NPO 法人環境パートナーシップいわて
【宮城県】公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
【宮城県】NPO 法人せんだい・みやぎNPO センター
【宮城県】NPO 法人環境会議所東北
【宮城県】仙台広域圏 ESD・RCE

【秋田県】NPO 法人環境あきた県民フォーラム
【秋田県】一般社団法人あきた地球環境会議
【山形県】NPO 法人環境ネットやまがた
【福島県】NPO 法人うつくしまNPO ネットワーク

Ⅱ - 2. 令和3年度 事業計画

6) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

地域の金融機関、経済団体等の参加する情報交換会やワークショップ等の開催をはじめとする地域循環共生圏の推進主体となり得る企業や金融機関とのパートナーシップの形成を促進するための業務を行い、ネットワークを形成する。

①情報交換会等の開催

地域循環共生圏構築のため、各省庁地方支分部局、経済団体、自治体及び金融機関等の関連団体との情報交換会を開催やワークショップの開催を支援する。

②事業検討会議への参加

GEOC が開催する事業検討会議に参加し、ネットワークを構築のプロセス、意見交換会等の場の運営及び案件形成などに対して情報共有をするほか、有効な手段などについて議論を行うとともに、情報交換会に参加し、情報収集を行う。

(4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

1) みちのく薪びと祭り

持続可能な社会の実現に向け、東北の特色を活かした環境活動の促進を目的として創設したネットワークの更なる強化等を旨とするともに、ネットワークを構成する団体等の活動や取組を地域循環共生圏の創造へとつなげるため、交流会を開催する。また、事業の円滑な実施に向けてキーパーソン会議を開催する。

東北地方 ESD 活動支援センター業務

東北地方における ESD 推進のための一元的なネットワークを構築するため、専門家や関係する団体や組織の代表者等との連携及び協力を図りながら ESD 活動に関する相談または支援窓口をはじめとする仕様書に定める業務を実施する。各事業の実施にあたっては、ESD の考え方をベースに「地域循環共生圏」を実現する人づくり(多様なステークホルダーとの連携を図りながら地域資源を発掘し、持続可能な地域づくりのために活用することで、環境、経済、社会の関係性を理解し、パートナーシップの深化、他地域との交流等を進めることのできる「人づくり」の取組みの在り方)についても考慮する。

(1) 東北 ESD センター企画運営委員会の開催運営等

ESD の推進に取り組んできた自治体や企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全に取り組んでいる専門家からなる東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会(以下「企画運営委員会」)を設置の上会議を開催し、事業実施計画(案)等について議論するとともに、東北 ESD センターのコンセプトや役割を含めた基本的な方向性を検討する。

(2) ESD 活動に関する相談及び支援窓口

地域の ESD 活動実践者や実践団体(学校や社会教育施設、NPO/NGO、企業等)から、ESD 活動を実践するにあたって相談や支援の要請があった場合は、適切に対応する。加えて、ESD 実践に関心を持つ主体に働きかけ積極的に支援する等により、ESD 活動の普及に努める。

(3) ESD 活動に関する域内情報の収集発信及び ESD 活動に関する域内外への情報提供等

域内の ESD 活動に関する情報を収集し、域内外に発信するとともに、ESD 活動に関するプログラムや資料等を収集し、ESD 活動実践者等に提供する。地域の ESD 活動事例や地域の ESD の推進に役立つ情報等を発信するために、地域情報を収集のうえ整理し、ESD 活動支援センター(以下「全国センター」)が運用するウェブサイト内において情報を順次掲載する。

(4) 地域 ESD 拠点の登録及び支援等

地域 ESD 拠点の登録を促進するために、ESD 活動実践者等に対する情報発信や調整等を行うとともに、登録手続きにおいては登録審査を行う全国センターに対する情報提供等を行う。また、地域 ESD 拠点との間で情報共有やイベント協力等の連携を図るなどして情報収集を行うとともに、地域における ESD 活動の支援を実施する。

(5) 全国センターとの連携協力の推進等

会議やイベント等に出席し、得られた情報等を適宜、担当官と共有するとともに必要に応じて企画運営委員会での議論に反映させる。また地方センターウェブサイト等を活用して地域 ESD 拠点や地域の ESD 実践者等に情報提供を行う。

- ・全国センター企画運営委員会
- ・ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
- ・ESD 全国フォーラム

(6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

ESD 活動推進に資するテーマを定めて地域内外の ESD 関係者に交流と学び合いの機会を提供することを目的に、環境省、文部科学省及び全国センターが共催する ESD 全国フォーラムに分科会活動を提案する。

- 1) 活動計画の策定** テーマ設定、中核となる実践者または講師の選定を行い、6 月末を目安に年間活動計画を作成する。
- 2) 交流会の参加募集** ESD 推進ネットワーク等を活用して全国から分科会参加者を募集する。主要な参加対象地域推進拠点を想定し、域内の地域推進拠点に対して、いずれかの分科会に参加するよう呼びかける。
- 3) 学び合いの実施** テーマについて参加者と交流して学び合うために、講演を含む勉強会及び意見交換会等を実施する。
- 4) 実践活動** 講師等と相談のうえ実践活動を企画し、上記 3) の活動内容に対する意見交換を経て、11 月末までを目途に実践活動を実施する。
- 5) 報告** ESD 全国フォーラムに活動結果を報告する。

(7) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催

地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークを構築する機会として東北 ESD / SDGs フォーラムを開催し、地域 ESD 活動推進拠点や ESD / SDGs 実践者を交えて、地域における活動や課題やニーズ等を把握するとともに、地域 ESD 推進拠点との連携による普及啓発の効果的な手法等について意見交換を行うためにフォーラムを開催する。

(8) ESD 推進地域研修会（学習会）の開催

地域 ESD 拠点間の連携によって、地域からの ESD 推進の底上げと活性化を図るため、地域の ESD 実践者等を対象に、ESD 関連の有識者又は先進的実践者等の講演及び意見交換を行う研修会又は学習会を開催する。

その他

(1) 東北地方環境事務所との協働による事業実施

業務を実施するにあたっては、東北地方環境事務所と協働による円滑な運営を確保し、同事務所と密接な情報共有及び意見交換を図るため定期的な打ち合わせを行う。また事業の内容に応じて、環境省各部署のほか環境省以外の国の機関や地方公共団体とも協力して事業を実施する。

(2) 業務実施にあたっての配慮事項

業務実施計画に沿って事業を実施するにあたり、東北地方環境事務所との協働による円滑な運営を確保するため、密接な情報共有及び意見交換を図るとともに、事業内容に応じ、環境省各部署のほか環境省以外の国の機関や地方自治体とも協力して事業を実施する。また、以下①～⑥への十分な配慮に加え、新型コロナウイルス感染症の予防を念頭においた配慮や対応を行う。

- ①全国の EPO とのネットワークの活用
- ②関係主体（NPO/NGO、行政、金融機関及び企業等）の参加、協力の確保、関連施設等との役割分担及び連携
- ③前年度までの実施事業との整合性の確保
- ④環境パートナーシップに係る「対話」「実践」「発信」が継続的かつ発展的に循環するような事業展開
- ⑤第 5 期（平成 31 年度～令和 3 年度）における活動成果及び実施体制の総括
- ⑥外部資金の活用

Ⅱ -3. 令和3年度 事業予定表一覧

EPO 東北	4月	5月	6月	7月	8月
(1) 事業検討委員会の開催 に関連する業務				事業検討委員会①	
(2) 基本業務に関連する業務 1) 情報発信 2) 相談対応、対話の場作り 3) 全国事業に関わる業務 4) 施設の維持及び管理	≪随時≫ ・相談対応 ・事業連携協力 ・ウェブサイト更新 ・メルマガ月2回配信		全国 EPO 連絡会①		
(3) 地域循環共生圏の創造に 資するための推進に関連する業務 1) 地域プラットフォームの環境整備 支援等業務 2) 地域循環共生圏プラットフォーム 意見交換会等の支援業務 3) 環境省及び GEOC が主催する 会議等への参加 4) 支援チーム派遣団体の 活動情報の共有	≪継続≫三瀬地区自治会（山形県） ≪新規≫NPO 法人循環型社会創造 ネットワーク（青森県） ≪新規≫米沢市（山形県） ≪支援チーム派遣≫（一社） Reborn-Art Festival（宮城県） ヒアリング オンラインサロン 13回/年	伴走支援 現地会議、ワークショップへ適宜参加 共有会①	情報交換会 企画調整	アドバイザリー 委員会① 連絡調整会議①	（傍聴） 有識者会合①
(5) 森里川海推進ネットワーク 形成会合の開催 a 環境学習施設当職員における 情報交換会等の開催 b パートナースイップ団体 情報交換会の開催		企画調整	企画準備	企画調整	企画準備
(6) 地域循環共生圏パートナーシップ 基盤強化事業 a 情報交換会等の開催 b 事業検討会議への参加		関係者ヒアリング 企画調整	マッチング支援①	情報交換会①	事業検討会議①
(4) 拠点間連携による地域内の 中間支援機能強化に関連する業務		企画調整	キーパーソン 会議①	企画準備	交流会
東北 ESD センター	4月	5月	6月	7月	8月
(1) 東北地方 ESD センター企画運営 委員会の運営等に関連する業務				企画運営委員会①	
(2) ESD 活動に関する相談・支援窓口 対応に関連する業務	≪随時≫				
(3) ESD 活動に関する域内情報の収集 及び ESD 活動に関する域内外への 情報提供	≪随時≫ ・ウェブサイト更新 ・メールマガジン月2回	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム との定期連絡会（隔月）			
(4) 地域 ESD 拠点の登録及び支援	≪随時≫				
(5) 全国センターとの連携協力の推進等	オンライン 打合せ 適宜		全国センター 企画運営委員会①	ESD センター 連絡会①	
(6) 域内外の多様な主体の連携促進、 交流の機会提供	企画調整	勉強会／意見交換会①		勉強会／意見交換会②	
(7) 東北 ESD/SDGs フォーラムの 開催	企画調整			企画準備	
(8) ESD 推進地域研修（学習会）の 開催				企画調整	
その他会議等	4月	5月	6月	7月	8月
(1) 東北地方環境事務所との協働による 事業実施	≪随時≫ 事業ごとの打合せ等		事業運営会議①		事業運営会議②
(2) 地球環境基金との連携				東北地区情報交換会	連絡会議
(3) GreenGift 地球元気プロジェクト （青森）小川原湖自然楽校 （岩手）いわて流域ネットワーク （山形）やまがたヤマネ研究会	企画調整 企画調整 ツール開発		イベント①	イベント①	イベント②

[illegible]

運営第5期

平成31（令和元）年度（2019年度）～令和3年度（2021年度）

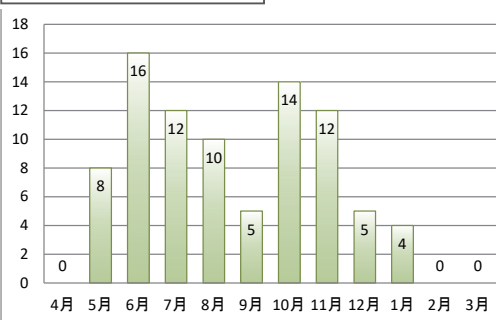
令和3年度 事業報告

Ⅲ - 1. 出張・外出のべ日数

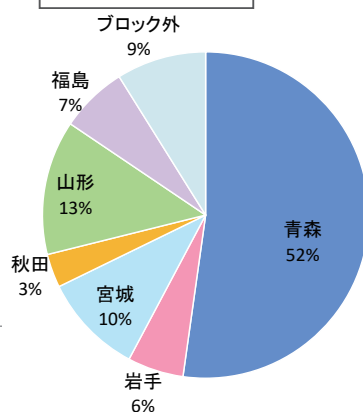
4～5月および8～9月は新型コロナウイルス感染症が拡大し、まん延防止措置や緊急事態宣言が出されるなど、昨年度に引き続き対面での打合せおよび会議・催事開催の自粛が求められた。感染症に対して各県で独自の対応がとられていたことからこれに従い、往来自粛を呼びかけていた県への訪問は控え、オンライン対応とした。青森県への訪問が特出して多いが、東北 ESD/SDGs フォーラム青森開催に向けた打合せや、青森県における外部連携を2事業行ったためである。過去の出張・外出のべ日数と比較すると出張・外出のべ日数は大きく減り、全体の6割ほどがオンライン対応へとシフトした。

のべ 90 日

■ 月別のべ出張・外出

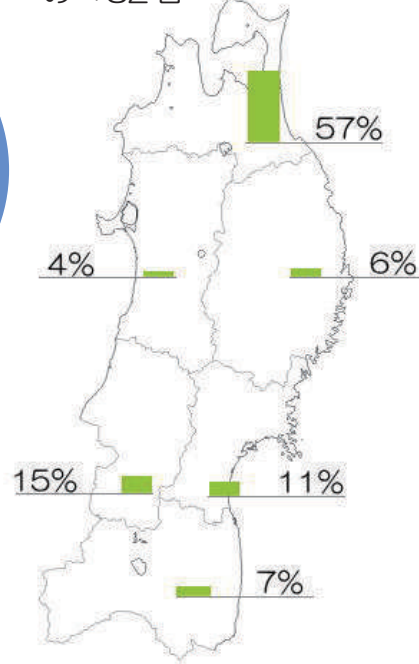


■ 地域別訪問状況

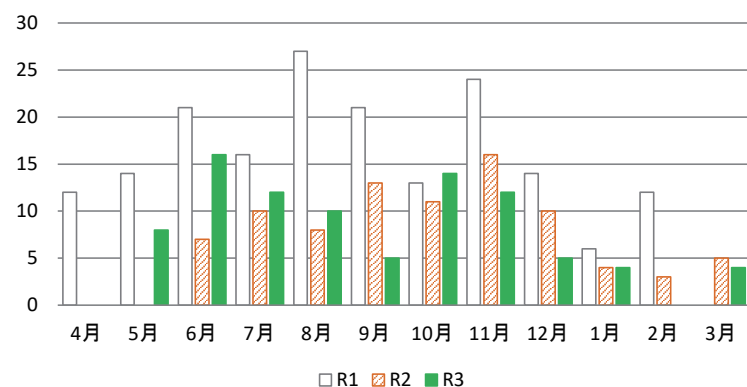


■ 東北6県訪問状況

のべ 82 日



■ 3年間における比較



■ オンライン・ハイブリット会議等

のべ 112 件



山形県遊佐町 大規模太陽光発電所 (7/14)



地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 打合せ (9/13)

Ⅲ - 2. 事業実施一覧

(1) 東北環境パートナーシップオフィス事業

1) 事業検討委員会の運営等

事業検討委員会（年2回）	7/13、2/7
--------------	----------

2) 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR

Web サイト	随時更新
メールマガジン	月2回配信
機関誌 EPO 東北通信	年1回

② 相談対応・対話の場づくり

相談件数	40件
対話の機会数	127件
共催事業	1件
後援	4件
活動支援	4件

※対話の機会数：情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等

③ 全国事業に関わる業務

全国 EPO 連絡会議	6/28-29、1/11
EPO 新任者向オリエンテーション	6/16
情報共有会・セミナー等	8/19、9/10
基盤ネットワーク会議等	9/21、1/7-8

④ 施設の維持・管理

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務

① 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

採択：36 団体			
分類		全体	東北
環境整備	新規	20 団体	2 団体
	継続	8 団体	1 団体
事業化支援		8 団体	1 団体

① -1. 環境整備のプロセスに係る支援

新規	NPO 法人循環型社会創造ネットワーク (青森県)
	米沢市（山形県）
継続	三瀬地区自治会（山形県）

① -2. 意見交換会の支援業務

東北地区合同意見交換会	9/28
-------------	------

① -3. 環境省及び GEOC が主催する会議等への出席

情報交換会（2 日間）	6/1-2
中間報告会（3 日間）	12/3、6-7
成果報告会（2 日間）	3/8
共有会（3 回）	5/11、12/8、3/9
ブロック別共有会（1 回）	9/9
アドバイザー委員会（2 回）	7/29、2/15
作業部会（2 回）	9/10、12/8
有識者会議（3 回）	9/1、12/20、3/28
ワーキンググループ（3 回）	9/14、12/9、3/3
地域循環共生圏フォーラム	10/27

① -4. 支援チーム派遣団体の活動情報の共有

団体	(一社) Reborn-Art Festival（宮城県）
連絡調整会議	9/7
情報交換会	12/13

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

みちのく薪びと祭り

キーパーソン会議	10/20
鳴子視察&キーパーソン会議	11/12

② 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

② -1. 環境学習施設等職員における情報交換会等の開催

東北地方ビジターセンター交流会	3/18
-----------------	------

② -2. パートナーシップ団体情報交換会

パートナーシップ団体情報交換会	1/24
-----------------	------

③ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

③ -1. 情報交換会等の開催

ESG 金融 ローカル SDGs (地域循環共生圏) シンポジウム in 秋田	11/30
関連団体との情報交換等	12 回

③ -2. 事業検討会議への参加

事業検討会議（2 回）	9/22、2/8
情報交換会（2 回）	11/30、1/26



NPO 法人循環型社会創造ネットワーク 協議会準備会（11/16）

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター事業

1) 企画運営委員会の運営等

企画運営委員会（年2回） 7/13、2/7

2) ESD 活動に関する相談・支援窓口対応

相談件数	39 件
対話の機会数	89 件
共催事業	11 件
後援	4 件
活動支援	9 件

3) ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供

Web サイト	随時更新
メールマガジン	月2回配信
機関誌 EPO 東北通信	年1回
	EPO 東北と一本化して運用

4) 地域 ESD 拠点の登録及び支援

登録数	全国	154 件
	東北	16 件 前年度比 +2 件

5) 全国センターとの連携協力の推進等

①全国センター企画運営委員会	6/22、2/17
② ESD 活動支援センター連絡会	5/27、1/26
③ ESD 推進ネットワーク 全国フォーラム	12/11
④ ESD 国内実施計画説明会	4/26
⑤ミッション・ビジョン再構築 ミーティング	8/6
⑥ヒアリング・事例集打合せ	9/6
⑦ ESD 活動支援センター打合せ	10/7、10/21、 11/4、11/18、 12/2、12/16、 1/12、1/18

(3) 東北地方環境事務所との協働

1) 東北地方環境事務所との協働

事業運営会議（年5回）	6/18、8/26、11/9、 1/13、3/16
-------------	------------------------------

(4) その他 企業等との協働事業

1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

①地球環境基金主催 EPO 連絡会	2/16
② 2022 年度地球環境基金 助成金説明会（東北地区）	10/25

2) GreenGift 地球元気プログラム

第4期（2019年10月～2022年9月）

実施都道府県	実施団体
青森県	小川原湖自然楽校
岩手県	(一社) いわて流域ネットワーク
山形県	やまがたヤマネ研究会

6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会提供

ESD for 2030 学び合いプロジェクト

地域の素材から考える

ESD/SDGs 教育の可能性

学び合い・勉強会①	8/9
学び合い・勉強会②地域編	10/23
学び合い・勉強会③学校編	10/30
実践活動「東北の連携実践事例に学ぶ」	11/3
学び合い・勉強会④振り返り	12/14

7) 東北 ESD/SDGs フォーラムの開催

東北 ESD/SDGs フォーラム 2021 みちのく SDGs in あおもり ～人づくりから広がる SDGs の輪～	10/17
--	-------

8) ESD 推進地域研修（学習会）の開催

あおもりの未来を異分野連携から考える	12/14
--------------------	-------

9) その他

関係する団体・組織との連携

ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム、東北地方環境事務所との連携会議	7/5、 1/17
---	--------------



気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2021 (11/5)

3) 青森県 令和3年度環境配慮行動拡大モデル事業

環境配慮行動拡大モデル事業コーディネート業務

- ・実施団体数：3 団体
- ・コーディネート業務内容：
 - ①企画提案競技における審査
 - ②ワークショップでの情報提供
 - ③取り組み実施に関する助言
 - ④アフターミーティングでの助言

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

１）事業検討委員会の運営等（仕様書番号 4-（１）- ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
委員長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
委員	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部国際教育領域 機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム 運営委員長
	小幡秀樹	(株) SKホールディングス 人事広報部 部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授、 青森大学 SDGs 研究センター長
	畠山順子	NPO 法人 あきたパートナーシップ 理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	細谷健司	青森県 環境生活部 環境政策課 課長
	村上利通	福島県 生活環境部 生活環境総務課 課長



事業検討・企画運営委員会オンライン開催（7/13）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 1 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R3/7/13（火）
会場	オンライン会議
参加者	24 名（委員 7 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 3 年度事業計画について ②意見交換 (2) 東北 ESD センター企画運営委員会 ①令和 3 年度事業計画について ②意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 2 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R4/2/7（月）
会場	オンライン会議
参加者	27 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①令和 3 年度事業報告 ②意見交換 (2) 東北 ESD センター企画運営委員会 ①令和 3 年度事業報告 ②意見交換 (3) 運営第 5 期総括 ①総括報告 ②意見交換

２）基本業務（仕様書番号 4-（１）- イ）

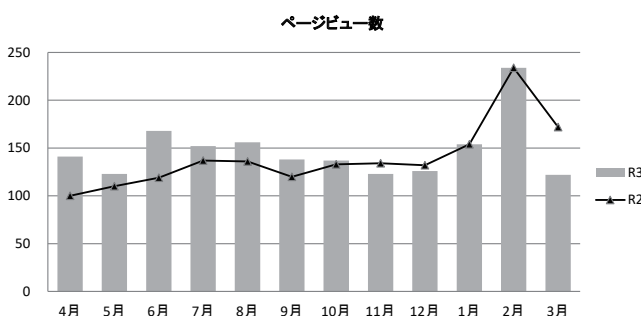
① Web サイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号 4-（１）- イ -（ア））

●情報収集

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、対面による情報収集は感染状況を鑑みながらの判断とし、既存のネットワークを通じて人や組織を紹介してもらい、地域の活動情報の収集に取り組んだ。また、オンラインを活用してのヒアリングや情報交換を行った。

ウェブサイト

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 147.8 件



●情報発信

ウェブサイトおよびメールマガジンを活用し、環境や ESD、SDGs に関する情報の他、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。運営第 5 期からリニューアルした機関誌については、EPO 東北事業の PR ツールとして活用した。

メールマガジン

タイトル	東北えぼめる通信
内容	(1) EPO 東北からのお知らせ (2) 東北 ESD センターからのお知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報
登録者数	1,198 名（前年比 -2 名）（前年 1,200 名）
配信	月 2 回、臨時号あり
備考	ウェブサイトの新規構築時に搭載したシステムを活用して配信をしてきたが、登録者数が 1,000 人を超えたことで配信エラーが発生するようになったため、5 月から外部配信サービスの利用に切り替えた。

機関誌

タイトル	EPO 東北
内容	①巻頭特集 「気候教育×主権者教育プロジェクト」 ② EPO 東北事業紹介 ③東北 ESD センター事業紹介 ④他団体協力事業
発行部数	900 部
発行	年 1 回 (R4.3 月)



スタッフミーティング (5/28)

●事業総括

【成果】

- ・広報誌「EPO 東北通信」は EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センターの PR ツールと位置付けて活用した。活動のイメージが伝わりやすいよう写真を大きく掲載する紙面づくりを行ったことで、「どんな取り組みをしているのかわかりやすい」と好評を得ている。
- ・メールマガジンの配信体制を見直したことで、登録管理に関する作業の改善を図ることができた。

【課題】

- ・全体の事業の増加とともに事業担当の業務も増え、ウェブサイトにおいては EPO 東北事業の報告を掲載するページが滞りがちである。EPO 東北と東北地方 ESD 活動支援センター、2 つのウェブサイト管理に対応するため、業務バランスを鑑みながら円滑な運営体制が課題となる。

②相談対応・対話の場づくり及び過去案件のフォローアップ (仕様書番号 4- (1) - イ - (イ))

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	3/5	オンライン	日本環境教育学会東北支部	日本環境教育学会東北支部大会

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	11/17	オンライン	東北大学大学院教育学研究科・環境科学研究科、(一社) 東松島みらいとし機構	持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方 ウェビナーシリーズ第 1 回
2	1/12	オンライン		ウェビナーシリーズ第 2 回
3	3/9	オンライン		ウェビナーシリーズ第 3 回
4	2/26	青森県 青森市	青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センター	火の文明学シンポジウム「火の学び、顕現に向けて」

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	6/3	山形県 飽海郡遊佐町	「地域農業と日本の食料を守り、持続可能な社会と地域を発展させる共同宣言」推進協議会	遊佐町ローカル SDGs 勉強会
2	6/10	秋田県 秋田市	(一社) あきた地球環境会議	秋田商業高校エコロジカルビジネス班 SDGs 授業 ※事前に動画を撮影し、当日はその動画を放映
3	11/19-20	宮城県 仙台市	全国風穴ネットワーク NPO 地域づくり工房	第 8 回全国風穴サミット in 白石・仙台
4	3/28	オンライン	(独) 環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局	東北地区 SDGs セミナー
5	3/	山形県 酒田市	庄内協議会事務局	庄内地域ローカル SDGs 勉強会 ※新型コロナウイルス・オミクロン株流行のため延期

催事・会議等参加

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	1/5	オンライン	(公社) 日本青年会議所 東北地区協議会	日本青年会議所東北地区協議会

過去案件のフォローアップ

- ・地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業において、昨年度まで伴走支援の対象であった案件のフォローアップに留意した。
- ・その他、過去に対応した案件について必要に応じて情報交換、情報提供などを行った。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

2) 基本業務（仕様書番号 4-（１）-イ）

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号 4-（１）-イ-（イ））

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	ダメだっちゃ温暖化県民会議
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	仙台管区気象台	東北地方気候情報連絡会
4	福島県環境創造センター 総務企画部企画課	福島県環境創造センター 交流棟展示更新検討会

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介等

相談対応件数 40 件
対話の機会数 127 件

③全国事業に関わる業務（仕様書番号 4-（１）-イ-（ウ））

■全国 EPO 連絡会議

催事名	第 1 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R3/6/28-29（月火）
会場	高松センタービル（香川県高松市）
内容	(1) EPO ネットワーク事業について (2) 外部連携事業について (3) 事務所会議・EPO 受託者会議

催事名	第 2 回全国 EPO 連絡会議
開催日	R4/1/11（火）
会場	ウィメンズプラザ聴覚室（東京都渋谷区）
内容	(1) 令和 3 年度事業（主に EPO 基盤業務） 進捗及び成果の共有 (2) 令和 4 年度事業の予定 (3) 環境省本省からのトピックス (4) 事務所会議・EPO 受託者会議

■ EPO 新任者向オリエンテーション

催事名	EPO 新任者向オリエンテーション
開催日	R3/6/16（水）
会場	オンライン会議
内容	(1) 主旨説明 (2) EPO 事業の特徴 (3) EPO あり方検討の経緯 (4) 全国事業の経緯と成果 (5) 質疑応答・意見交換

■情報共有会・セミナー等

催事名	EPO 向け脱炭素セミナー
開催日	R3/8/19（木）
会場	オンライン会議
内容	(1) 話題提供 「地球温暖化対策推進法の改正と 地域脱炭素ロードマップ」 (一社) 地球温暖化防止全国ネット 専務 理事 秋元智子氏 (2) 話題提供 「『脱炭素』って、どう伝える？」 (一社) 地球温暖化防止全国ネット 企画広報・事業グループ 井原妙氏

催事名	情報共有会
開催日	R3/9/10（金）
会場	オンライン会議
内容	(1) 改正地球温暖化対策推進法について 環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素 ビジネス推進室補佐 新原修一郎氏 (2) 改正瀬戸内海環境保全特別措置法 について 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 室長補佐 濱名功太郎氏



第 1 回全国 EPO 連絡会議（6/28-29）



第 2 回全国 EPO 連絡会議（1/11）

■基盤ネットワーク会議等

催事名	EPO ミーティング：基盤ネットワーク系
開催日	R3/9/21（火）
会場	オンライン会議
内容	(1) EPO カタログ作成（案）について (2) 地域循環共生圏プラットフォーム事業 下半期予定について

催事名	EPO カタログ合宿 (EPO ネットワーク事例集作成会議)
開催日	R4/1/7-8（金土）
会場	AIM3F（福岡県北九州市）
内容	(1) レクチャー (2) 事例研究 (3) 情報交換 (4) 検討事例共有 (5) R4 業務戦略会議



EPO カタログ合宿（1/7-8）

④施設の維持・管理（仕様書番号Ⅳ－1.－（１）－エ）

開館状況	開館日数	228 日
	来場者数	371 人
会議スペースの提供	利用件数	90 回
	利用者数	365 人
図書資料等の提供	提供実績	69 回
	追加収集した資料等	116 件

■新型コロナウイルス感染症に関する対応と予防対策

①執務室・会議室の感染症対策

- ・消毒液の設置
- ・定期的な消毒（1 日 4 回）
ドアノブ等、触れる頻度が高い箇所の消毒
- ・定期的な換気（1 日 4 回、10 分以上）
- ・飛沫防止パーティションの設置

②会議室貸出ガイドラインをウェブサイトに掲載

③勤務体制

- ・感染状況に応じて在宅勤務、休日出勤、時差出勤を導入し感染リスクを回避
- ・スタッフの体調管理
- ・マスクの着用
- ・打合せ時はソーシャルディスタンスを確保

④会議室の貸出中止およびオフィス閉館

感染状況に応じて会議スペースの提供中止、オフィスの閉館を行った。

会議スペースの提供中止	R3/3/22～4/11
オフィス閉館	8/27～9/12
	1/18～21



パートナーシップ基盤強化事業オンライン会議（6/10）



相談対応（4/19）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務（仕様書番号 4-（１）- ウ）

①地域プラットフォームの環境整備支援等業務（仕様書番号 4-（１）- ウ -（ア））

●事業概要

第五次環境基本計画では SDGs やパリ協定といった持続可能な社会に向けた国際的な潮流や国内でも複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、「地域循環共生圏」を提唱した。

「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」では、広範な主体の積極的な参画と連携により、ローカル SDGs である地域循環共生圏の創造を推進することを目的としている。「地域循環共生圏の創造に向けた環境整備（以下、「環境整備」と記載）」に採択された活動団体について、ブロックごとに地方 EPO が伴走支援を実施した。

採択：36 団体

	全体		東北
環境整備	新規	20 団体	2 団体
	継続	8 団体	1 団体
事業化支援	8 団体		1 団体

【環境整備】

地域循環共生圏の創造に向け、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」の取組みを実施する。

【事業化支援】

R 元年度から R2 年度に選定された活動団体のうち、地域の構想が策定されステークホルダーの組織化等の環境整備が十分整ったと環境省が認めた活動団体について、より具体的な事業計画を策定しローカル SDGs ビジネスを具体化するため、各分野の専門家からなる支援チームの形成・現地派遣を実施する。

事業プロセス

事務局		環境整備【継続】	環境整備【新規】		事業化支援
		三瀬地区自治会 （山形県）	循環型社会創造 ネットワーク（青森県）	米沢市 （山形県）	Reborn-Art Festival （宮城県）
4月	4/13 REO 打合せ	4/26 ヒアリング	4/15 ヒアリング	4/23 ヒアリング	5/14 ヒアリング
5月	5/10 本省打合せ		5/20 打合せ	5/13 打合せ	
	5/12 共有会① 5/12 REO 打合せ 支援計画作成				
6/1-2 情報交換会（キックオフミーティング）					
6月	6/9 キックオフ振り返り 6/21 請負団体との打合せ	7/8-9 ミニモニターツアー＆ 意見交換会 7/9 打合せ 7/15 鶴岡信金訪問 7/27 全体会	6/25 打合せ	7/30 打合せ	7/2 ヒアリング
7月	7/26 REO 打合せ 7/29 アドバイザリー委員会①		8/3 協議会準備会① 8/3 打合せ		8/11～10/2 Reborn-Art Festival2021-22 8/28 シンポジウム 9/7 連絡調整会議
8月	8/26 REO 打合せ 9/1 有識者会議① 9/9 ブロック別共有会 9/9 REO 打合せ 9/10 作業部会①				
9月	9/13 意見交換会 打合せ 9/14 ワーキンググループ① 9/27 REO 打合せ 10/11 REO 打合せ 10/27 地域循環共生圏フォーラム	9/28 東北地区合同意見交換会			
10月			10/18 協議会準備会②	10/19 打合せ 10/27 SDGs セミナー	
11月			11/1 打合せ 11/26 協議会準備会③		
12/3、6-7 中間報告会					
12月	12/8 作業部会② 12/8 共有会② 12/8 REO 打合せ 12/9 ワーキンググループ② 12/20 有識者会議②	1/13 打合せ 1/31 打合せ	12/10 協議会準備会④	12/15 打合せ	12/13 情報交換会
1月			1/21 協議会準備会⑤	1/14 勉強会① 1/21 勉強会② 1/29 勉強会③※ 感染症の流行に伴い中止	
2月	2/15 アドバイザリー委員会② 3/3 ワーキンググループ③		2/7 打合せ 2/14 協議会準備会⑥	2/4 打合せ 2/10 メンタリング	
3月	3/8 成果報告会				
	3/9 共有会③ 3/28 有識者会議③				

①-1. 環境整備のプロセスに係る支援

鶴岡市三瀬地区自治会【山形県鶴岡市／継続】

●事業背景

人口減少が加速し、経済的な停滞、地域の担い手不足、災害対策への不安、交通インフラをはじめ生活基盤の崩壊など地域の賑わいが失われつつある。これらの課題に対して、鶴岡市やさまざまなセクターと連携しながら再生可能エネルギー事業、防災事業など、多様な課題の同時解決に向けた取組みを進めてきた。鶴岡市内の包括的な連携を生み出し、多方面を巻き込みながら多様な課題の同時解決を目指す。

●事業概要

- (1) 地域課題
 - ・森林資源のエネルギー活用による山林適正管理と地域内経済循環
 - ・海山川里を生かした自然体験による住民が住み続ける理由（プライド）の再認識と交流人口・関係人口の獲得
- (2) 活動におけるテーマ・キャッチコピー
「三瀬（さんぜ）イズム
～住むを楽しむコミュニティ～」
- (3) 地域循環共生圏構想
 - ①地域内でのエネルギーの自給自足
地域間協議会を作り、情報共有を行いながら地域内から出る自然エネルギーを使う「出口」の確保を目指す。主に自治組織が担い手となることを想定し、特に公共施設で積極的な利用を促進する。
 - ②自然体験事業者プラットフォーム
地域の自然資源、文化資源を活用して交流人口・関係人口の増加を目指し、都心部からの資金的・人的資本を循環させる。担い手のクオリティや提供価格等を平準化するため、庄内地域の関係者によるプラットフォームを形成し、一元的な誘客を図る。

●今年度の取組

- (1) 自然エネルギー活用
風力発電建設による森林整備・森林活用に関連している地域・自治組織をまとめることで協議会の設立を目指した。
- (2) 自然体験
R2年度の実践を経て、すでに活動が活発で課題が明確であることが関係者間で確認できた。協議会の設立から会社組織設立へ軌道修正を図り、DMOとの合意形成や、鶴岡信用金庫の助言を得ながら事業形態を模索した。
また、関係者向けモニターツアーの実施、総勢150名の教育旅行の受け入れ、鶴岡青年会議所とタイアップしたSDGs未来キャンプを実施し、自然体験プログラムの整理・内容の充実化を図るとともに庄内広域で課題を考える仕組みの構築に取り組んだ。

●EPO 東北のアプローチ

- (1) ミーティングの実施
 - ・ステークホルダーとの合意形成の進め方の提案
 - ・現状と課題、今後の進め方の整理
 - ・類似事例の情報提供
 - ・コンセプトシート（マンドラ）のブラッシュアップ
- (2) 事業運営のサポート
 - ・鶴岡信用金庫訪問の同行
 - ・関係者向けモニターツアーへの参加
 - ・モニターツアー振返りワークショップの進行補助



鶴岡信用金庫訪問（7/15）



関係者向けモニターツアー（7/8）



モニターツアー振返りワークショップ（7/9）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務（仕様書番号 4-（１）- ウ）

①地域プラットフォームの環境整備支援等業務（仕様書番号 4-（１）- ウ -（ア））

① -1. 環境整備のプロセスに係る支援

NPO 法人循環型社会創造ネットワーク【青森県八戸市／新規】

●事業背景

八戸市は製紙業、鉄鋼非鉄精錬業、セメント業など製造業が集中しており、未利用熱活用のポテンシャルが高い地域である。化石燃料を使わない産業構造へのシフトに向けて、同業種企業との連携や他産業との連携・協働によるイノベーションを生み出す必要がある。

●事業概要

- (1) 課題
 - ・化石燃料を使わない産業構造へのシフト
 - ・鉄鋼業・非鉄金属当の産業で排出される未利用熱の活用
 - ・地域で未利用資源を活用するためのプラットフォーム構築
- (2) 活動におけるテーマ・キャッチコピー
「未利用資源の循環による八戸地域連携で目指す脱炭素社会」
- (3) 地域循環共生圏構想
工場など生産現場等の排熱を「未利用熱」と捉え、地域内で利活用することで化石燃料の使用ゼロ化を目指す。

●今年度の取組

- (1) 八戸地域循環共生圏協議会準備会
行政、事業者、大学、研究機関、金融機関をステークホルダーとする協議会設立準備会を開催した。ワークショップ型の会議を実施し、「協議会」のイメージを関係者間で共有し意見交換を行う機会を設けた。
- (2) ステークホルダー・ヒアリング
個別にヒアリングを実施し、各ステークホルダーが抱える課題とニーズの把握に取り組んだ。また、未利用熱の活用に向けて対象事業者と実現に向けた意見交換を行った。

●EPO 東北のアプローチ

- (1) ミーティングの実施
 - ・プラットフォーム事業の解説
 - ・ステークホルダーとの合意形成の進め方の提案
 - ・現状と課題、今後の進め方の整理
 - ・成果物作成のサポート
- (2) 会議運営のサポート
 - ・ワークショップの進行
 - ・準備会での話題提供

米沢市【山形県米沢市／新規】

●事業背景

1995 年をピークに人口は減少し続けており、2045 年には老年人口の割合が 4 割を超える推計になっている。進学や就職に伴う市外流出も生産年齢人口減少の大きな要因となっている。若者が戻ってきたいと思える魅力ある地域づくりや地元で就職したいと思える働く場の確保とともに、市民が住み続けたいと思うシビックプライドの醸成が求められており、「魅力的で活気あふれる米沢」のまちづくりを行うことが必要である。

●事業概要

- (1) 課題
 - ・SDGs を実装する環境の町づくりの推進
 - ・「持続可能な地域づくり」の先駆けと言われる米沢 9 代藩主・上杉鷹山の教えや理念を SDGs の視点からとらえ直し、シビックプライドの醸成に活かす
 - ・高齢者の社会参画による地域コミュニティの活性化
- (2) 活動におけるテーマ・キャッチコピー
「地球に感謝！
なせばなる上杉鷹山流のローカル SDGs」
- (3) 地域循環共生圏構想
地域の自然や歴史、文化的資源を見つめ直し、市民・地域・事業者が一体となってゼロカーボンに向けた活動や環境保全意識の普及・啓発等に取り組み、「なせばなる『上杉鷹山流のローカル SDGs』を実現する。

※上杉鷹山（ようざん）：米沢藩 9 代目藩主。莫大な借金で潰れかけた米沢藩の財政再建を一代で成し遂げた江戸時代屈指の名君として知られ、「持続可能な地域づくりの先駆け」とも言われている。

●今年度の取組

- (1) 米沢市 SDGs 推進協議会
米沢市の SDGs を推進する中核組織として、大学、商工会議所、企業、金融機関、小中高校など多様なステークホルダーが参画する協議会を創設し、プラットフォーム事業との連携を図った。
- (2) コンセプトムービーの作成
米沢市内にも SDGs 達成に貢献する事業活動に取り組む事業者がいることから、地域の事業者や団体を紹介するコンセプトムービーを作成してセミナー等で放映を行った。またコンセプトムービーの作成に当たっては事業者へのヒアリングを行い、課題やニーズの把握とともに関係構築に努めた。
- (3) セミナー、勉強会の開催
職員向け研修会、市民向けセミナー、勉強会を開催し、SDGs の理解を深めるとともに、関係者間で「上杉鷹山流ローカル SDGs」について話し合う機会を設けた。

●EPO 東北のアプローチ

- (1) ミーティングの実施
 - ・プラットフォーム事業の解説
 - ・ステークホルダーとの合意形成の進め方の提案
 - ・現状と課題、今後の進め方の整理
 - ・他地域の取組み事例紹介
 - ・成果物作成のサポート
- (2) 勉強会のサポート
 - ・ワークショップの進行

① -2. 意見交換会の支援業務

東北地区合同の情報交換会、意見交換会の開催

- 東北地区の活動団体、請負事業者、東北地方環境事務所、EPO 東北が一堂に会し交流する機会として、情報交換会東北サテライト会場を設けた他、意見交換会も東北地区合同で開催した。
- 関係者全員で事業の概要および方向性を確認し、本事業の理解を深めることを目的とした。活動状況や地域へのアプローチ手法を共有することにより、新たな視点と気づきを得る学びの場として開催した。
- 新規団体はEPO 東北の伴走支援が初めての体験となることから、継続団体とEPO 東北の関係性や関わり方を理解してもらうことも狙いとした。



合同意見交換に向けた打合せ（9/13）

開催概要

催事名	令和3年度 情報交換会（キックオフ）
開催日	R3/6/1～2（火・水）
会場	東北ブロック サテライト会場 HUMOS5 8F 会議室大 A ホール （宮城県仙台市）
参加者	サテライト会場参加者 24 名 （会場 14 名、オンライン 10 名）
主催	EPO 東北、東北地方環境事務所
内容	（1）キックオフ本体プログラム（Zoom）への参加 ①本事業の特徴性について ②講演「地域を変える学びの重要性」 ③環境整備（継続）活動団体 発表 ④環境整備（新規）活動団体 発表 （2）サテライト会場での意見交換 ①話題提供 ・（一社）Reborn-Art Festival ・三瀬地区自治会 ②ワークショップ 気づきの共有 ③2 日間の感想共有

催事名	東北ブロック合同意見交換会
開催日	R3/9/28（火）
会場	オンライン会議
参加者	33 名 （採択団体、環境省本省、東北地方環境事務所、請負者、アドバイザー委員、GEOC、EPO 東北）
主催	EPO 東北、東北地方環境事務所
内容	（1）事例紹介「VESTA プロジェクト」 NPO しんりん 大場隆博氏 もりたびの会 加賀 道氏 （2）活動報告と意見交換 ・（一社）Reborn-Art Festival ・三瀬地区自治会 ・米沢市 ・NPO 法人循環型社会創造ネットワーク
備考	VESTA プロジェクト（宮城県大崎市）現地見学を含めたりアル開催を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の広がりを受けて宮城県に緊急事態宣言が出され（8/27～9/12）、9/30 までまん延防止等重点措置対象地域となったことからオンライン開催へ変更した。



情報交換会東北サテライト会場（6/1～2）



東北ブロック合同意見交換会（9/28）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

③ 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務（仕様書番号 4-（１）- ウ）

① 地域プラットフォームの環境整備支援等業務（仕様書番号 4-（１）- ウ -（ア））

① -3. 環境省及び GEOC が主催する会議等への出席

（１）活動団体向けの報告会等への参加および補佐

会議名	開催日	開催形態	概要
情報交換会 (2 日間)	6/1 ~ 2	オンライン	地域循環共生圏づくりに挑戦する人々が集い、お互いを知り学び合いの関係性をつくることを目的にキックオフミーティングが開催された。 1) EPO の役割：地方ブロック別コミュニケーションタイムの進行 2) 東北地区：東北ブロックサテライト会場を設け、団体同士の相互交流の機会を設けた。
中間報告会 (3 日間)	12/3、 6 ~ 7	オンライン	環境整備活動団体の進捗を共有し、今後の取組みの学びとなるよう団体間のノウハウ交流や学び合いの機会として開催された。 1) EPO の役割：ブレイクアウトルームを使った意見交換の進行
成果報告会	3/8	オンライン	1 年間の取組みの成果報告が行われた。活動団体同士がお互いの取り組みを共有するとともに、今後も取組を続けるにあたり助け合える仲間をつくることを目的として開催された。

（２）事務局関係者間の会議への参加

会議名	開催日	開催形態	概要
共有会 (3 回)	5/12 12/8 3/9	オンライン	目的：事業全体の情報共有および、中間報告会・成果報告会後に振り返りを行う。 参加：環境省環境計画課・民間活動支援室、地方事務所、GEOC、地方 EPO
ブロック別 共有会（１回）	9/9	オンライン	目的：今年度の環境整備活動団体の状況や、EPO による支援状況を地方ブロック毎に共有する。 参加：全国事務局（環境省環境計画課、請負者、GEOC）、地方事務所、地方 EPO
アドバイザー 委員会（２回）	7/29 2/15	オンライン	目的：地域プラットフォーム環境整備支援のプロセス分析・加速化の方策などについて検討する。 参加：アドバイザー委員、環境省環境計画課・民間活動支援室、GEOC 傍聴：地方事務所、地方 EPO、いであ沖縄支社、請負者
作業部会 (2 回)	9/10 12/8	オンライン	参加：地方 EPO、いであ沖縄支社、GEOC 傍聴：環境省環境計画課・民間活動支援室、アドバイザー委員

（３）その他会議および催事へのオブザーブ参加

会議名	開催日	開催形態	概要
有識者会議 (3 回)	9/1 12/20 3/28	オンライン	目的：環境整備及び支援チーム派遣等を行う団体の選定、継続の要否を検討し、プラットフォーム事業の全体像について意見を頂戴する。 参加：有識者会議委員、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方事務所、地方 EPO、いであ沖縄支社
ワーキング グループ（３回）	9/14 12/9 3/3	オンライン	目的：支援スキームづくり等を検討するとともに、プラットフォームの機能、運営方法等についても見直し、改善を図る。 参加：委員、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方事務所、地方 EPO、いであ沖縄支社
地域循環共生圏 フォーラム 2021	10/27	オンライン	目的：各地域や企業等で注目されるトピックについて事例を紹介し、参加者と双方向の議論を行うことで「出会い・交流」の場づくりを行う。 参加：各分科会 300 名を上限に広く参加募集

①-4. 支援チーム派遣団体の活動情報の共有

事業化支援（支援チーム派遣）団体向けに開催された会議、ヒアリング等にオブザーブ参加し、進捗状況の把握に努めた。また、東北ブロックで開催した合同の情報交換会、中間報告会への参加を促し交流の機会を設けた。

会議名	開催日	開催形態	概要
連絡調整会議 (2回)	9/7	オンライン	目的：各地域の事業化に向けた取り組み内容の共有、今後の展開に向けた意見交換を行う。 参加：活動団体、委員・専門家、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方事務所、地方EPO、いであ沖縄支社
情報交換会	12/13	オンライン	目的：取組みの進捗状況、課題を共有し、地域間の連携の可能性について意見交換を行う。 参加：活動団体、環境省環境計画課、事務局（請負者） 傍聴：GEOC、地方事務所、地方EPO、いであ沖縄支社

●事業総括

【成果】

- ・課題の整理やステークホルダーを対象としたワークショップ進行など、環境整備に必要な支援に取り組んだ。事業の進捗については東北担当の請負者とも情報共有を行い、東北ブロックの連帯感を醸成することに努めた。
- ・EPO 東北独自の取組みとして、情報交換会と意見交換会を東北ブロック合同で開催した。地域へのアプローチ手法などについて積極的に助言や提案が行われ、有意義な学び合いの機会を提供することができた。特に新規活動団体は合同意見交換後に取組みが活性化され、事業推進の後押しになった様子がうかがえた。

【課題】

- ・本事業に関わる関係者が多く中で、関係者ごとのオンライン会議の数が多く、業務量が増加傾向にある。円滑な情報共有とコミュニケーションのあり方が課題となる。
- ・新規団体はプラットフォームのイメージが具体的に描けない、ステークホルダーが参画する場作り・仲間づくりを理解していないなど、共通の課題がみられる。これらの課題解決を目的に、合同意見交換会では事例視察を含めた対面開催を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となり、対面開催ほどの効果は得られなかった。オンライン開催の場合でも効果的な学び合いの機会が提供できるよう工夫が求められる。



【循環型社会創造ネットワーク】 打合せ (5/20)



【循環型社会創造ネットワーク】 準備会ワークショップ (10/18)



【米沢市】オンラインセミナー「ローカルSDGs入門」(10/27)



【米沢市】コンセプトムービー

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

③ 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務（仕様書番号 4-（１）- ウ）

② 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催（仕様書番号 4-（１）- ウ -（オ）- a）

② - 1. 環境学習施設等職員による情報交換会等の開催

●事業背景

環境省では自然資源を豊かに保ちその恵みを引き出すこと、一人一人が森里川海の恵みを支える社会をつくることを目指しており、国立公園の自然を伝える学習施設であるビジターセンター・インフォメーションセンターの活用が期待される。EPO 東北ではこれらの施設とのつながりが弱く、相互理解と学習の機会を設けネットワークの拡充に取り組むこととし、平成 30（2018）年度から継続して交流会を開催してきた。

●課題

- ・少人数でセンター運営が行われており、運営や利用者向けプログラムの開発と実施、地域との連携、館内展示など、多くの課題を抱えている。
- ・社会のニーズや利用者の情報収集のあり方が大きく変容しており、自然体験学習や観光分野でもオンライン型の企画が行われ、PR ツールとして動画が活用されている。ビジターセンターにおいても新たな啓発スタイルへの対応が課題となっている。

●プロジェクト概要

環境省直轄のビジターセンター・インフォメーションセンターを対象に、相互交流と学びあいの場を作ることで東北地区のネットワーク構築を目指す。

「生物多様性に関する普及啓発や情報発信」の視点からオンライン配信や動画を活用した自然体験や啓発手法を学び、今後の活用に向けた検討を行う。

●EPO 東北のアプローチ

①ヒアリング

各ビジターセンター・インフォメーションセンターを訪問し、各センターのニーズ把握に努めた。

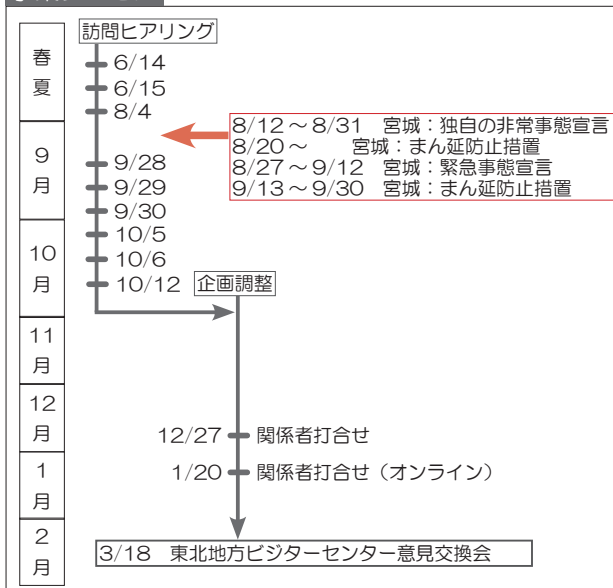
②異分野との連携

オンライン型の自然体験プログラムや動画配信による PR を検討するにあたり、実際に YouTube 配信を行っている方を招聘して意見交流を行った。

開催概要

催事名	東北地方ビジターセンター交流会	
開催日	3/18（金）	
会場	オンライン会議	
参加者	24 名	
主催	EPO 東北	
内容	講話	「アフターコロナに向けた新たな情報発信について」 （一社）コ・クリエーションデザイン 平田裕之氏
	話題提供	「始める！続ける！楽しむ！～動画配信の効果～」 いずみキャンプチャンネル Youtuber 和泉氏
	意見交換	「アフターコロナを見据えた新たな情報発信の在り方について」 【ファシリテーター】 （一社）コ・クリエーションデザイン 平田裕之氏

事業プロセス



東北地方ビジターセンター交流会（3/18）

●事業総括

【成果】

- ・講話、話題提供では作成側の視点、視聴者の視点から丁寧にお話いただき、参加者から好評を得た。アンケートでは「はっとした」「気づかされた」という感想が多く、異業種との交流によって第三者視点を考える機会となった。
- ・オンライン開催はチャットで発言がしやすい利点もあり、活発な意見交換の場が形成できた。

【課題】

- ・各施設ごとに特色があり、企画に際しては議論の方向性をそろえること、共通のテーマを見出すことが大きな課題となる。高い満足感を感じた参加者もいる一方で、議論の深まりの点で不満の声も寄せられた。
- ・動画配信に関して否定的な意見も多く見られた。組織内で整理すべき課題についての発言もあり、予めグラウンドルールを明示するなど改善の必要がある。

②森里川海推進ネットワーク形成会合の開催（仕様書番号 4-（1）-ウ-（オ）-b）

②-2. パートナーシップ団体情報交換会

●事業背景

EPO 東北ではパートナーシップ団体との連携・協働の関係性を継続させるため、定期的に会議の場を設定してきたが、一方的な事業報告を行う場に留まっていた。運営第 4 期から大幅な見直しを行い、参加団体にとって有意義な学習と交流の機会となるよう企画に取り組んでいる。

国内で脱炭素化に向けた動きが加速化しており、環境分野においても SDGs の視点から取り組みをとらえ直していくことが求められている。

開催概要

催事名	パートナーシップ団体情報交換会
開催日	R4/1/24（月）
会場	オンライン会議
参加者	28 名
主催	EPO 東北
内容	話題提供 ① 「2030 年脱炭素社会に向けて」環境対策課（併任）資源循環課 主査 岡内啓悟氏
	話題提供 ② 「EPO ネットワークの動きについて」（一社）環境パートナーシップ会議 理事・事務局長 尾山優子氏
	活動紹介 ① 「ESD 活動支援センターの方向性について」EPO 北海道／北海道地方 ESD 活動支援センター 統括 久保田学氏
	活動紹介 ② 「「気候変動対策×主権者教育」プロジェクト」（一社）あきた地球環境会議 事務局長 福岡真理子氏
	全体ディスカッション （主な意見） ・「脱炭素先行地域」について、自治体からの相談が増えている。東北地方環境事務所に相談窓口が設置されるのであれば、今後連携していけると良い。 ・事業者向けのセミナーを開催する中で、省エネなどへの関心の高まりを感じている。地域の課題解決にもつながる新しい仕組みを考えて提案していくことも考えたい。 ・SDGs を実装するためには地域の学校での ESD がより重要になると考える。 ・脱炭素や気候教育に関する勉強会や情報共有、議論の発信を EPO と協働で取り組んでいけると良いのではないかと。

●課題

- ・2015 年に SDGs が採択されて以降、パリ協定の成立、ESG 金融の広まり、コロナウイルス感染症の影響、脱炭素に向けた取り組みの加速化など、社会が大きく変容している。市民活動のあり方も社会のニーズに合わせて変革が求められる。
- ・新たな取り組みを創出していくために、最新の動向を把握して対応していくことが課題となっている。

●プロジェクト概要

脱炭素に関する国内の動向を把握し、先行して対応した市民活動に取り組んでいる事例を共有する。その上で関係者間で今後の活動展開や、EPO 東北との連携のあり方について意見交換を行う。

●EPO 東北のアプローチ

- ・脱炭素をテーマに 2 つの話題提供および活動紹介を行い、国内の動きとともに北海道・東北地区で生まれている新たなアプローチについて情報共有を行う。
- ・関係者による意見交換を通して、今後の連携のあり方を模索する。



パートナーシップ団体情報交換会（1/24）

●事業総括

【成果】

- ・日頃から事業連携を行う関係団体とカーボンニュートラルに関する最新の動向を共有し、各地域の状況について話題を提供していただく情報交換を行うことができた。
- ・継続して情報交換および意見交換の場を設けることで、関係性やネットワークの維持につながっている。

【課題】

- ・対面での開催を予定していたが、新型コロナウイルス「オミクロン株」の流行に伴い、オンライン開催に変更した。情報共有についてはオンラインで十分対応できるが、意見交換では活発な議論には至らず、20 名を超えるオンライン会議に進行は課題である。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

③ 地域循環共生圏の創造に資するための推進に関連する業務（仕様書番号 4-（１）-ウ）

③地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業（仕様書番号 4-（１）-ウ-（力））

③-1. 情報交換会等の開催

（１）シンポジウムの開催

●事業背景

2015 年 SDGs 採択やパリ協定の成立を機に、環境・社会・ガバナンスを考慮した経済の考え方が急速に広がっている。日本においても脱炭素化に向けた取組みが加速化し、新型コロナウイルス感染症の拡大は持続可能な社会を前提に経済活動が営まれるべきとの認識をより一層強める契機となった。あらゆるステークホルダーが連携しながら持続可能性を持つ事業構築に関与・協力していくことが求められている。

開催概要

催事名	令和 3 年度 ESG 金融 ローカル SDGs（地域循環共生圏） シンポジウム in 秋田
開催日	R3/11/30（火）
会場	秋田拠点センター ALVE 多目的ホール 2F （秋田県秋田市）※ハイブリット開催
参加者	67 名 （会場：35 名、オンライン：32 名）
主催	EPO 東北、環境省東北地方環境事務所、 （一社）あきた地球環境会議
共催	秋田市地球温暖化防止活動推進センター
後援	秋田県、秋田市、仙北市、秋田県商工会議所連 合会、秋田県商工会連合会、秋田県中小企業団 体中央会、（一社）秋田経済同友会、（一社）秋 田県経営者協会、（一社）秋田県銀行協会、（株） 秋田銀行、（株）北都銀行、（公財）秋田青年会議所、 （大）国際教養大学
内容	基調講演 ① 「ESG 金融の実装に向けて」 環境省大臣官房環境経済課 環境金融推進室 室長 近藤崇史氏
	基調講演 ② 「只見生まれの米焼酎 『ねっか』と地域未来」 福島県只見町教育委員会 元教育長 齋藤修一氏
	「サステナブルファイナンス について」 財務省 東北財務局 理財部長 田村嘉啓氏
	「環境省 ESG 地域金融促進事業 再エ ネを軸とした地方創生に向けて～脱 炭素社会実現へのマイルストーン～」 株式会社北都銀行 営業推進部地方創生室 シニアマネージャー 佐藤貴幸氏
	「SDGs 未来都市 仙北市の持続可能なまちづくり」 仙北市総務部地方創生・総合戦略室 係長 明平英晃氏
	パネルディスカッション 「地域循環共生圏を実装するための 秋田版ロードマップとは」 【コーディネーター】 （一社）コ・クリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏

●課題

- ・多様な主体が連携し、新たな取組みの実現・実装を目指す必要がある一方で、地域文脈に則った地域循環共生圏の創造についての理解が広がっていない。
- ・地域の持続可能性の向上や地域循環共生圏の創出に資する取組みの支援が課題となっている。

●プロジェクト概要

地域文脈に則った地域循環共生圏の創造について、多角的視点から考え理解すると同時に、持続可能で魅力的な地域づくりのためのデザインのあり方や人材育成を含めた具現化の手法について、ESG 地域金融をキーワードに学び共有し議論することで新たな取組みの実現・実装を目指す。

●EPO 東北のアプローチ

- ・EPO 東北のパートナーシップ団体であるあきた地球環境会議との協働による、秋田県を中心に東北に発信するハイブリット型のフォーラムを開催した。



ESG 金融ローカル SDGs（地域循環共生圏）シンポジウム in 秋田（11/30）

●事業総括

【成果】

- ・パネルディスカッションでは多様なステークホルダーの連携の可能性や、取組みを発展させていくために人材育成が重要性であることなどが議論され、多角的な視点から具体的な手法を学ぶ場を形成することができた。
- ・業務の効率化が EPO 東北事業運営の課題となる中で、パートナーシップ団体との協働による事業を実施することができた。

【課題】

- ・東北では地域循環共生圏の概念や ESG 金融に関する理解の浸透が十分とはいえず、具体事例から取り組みを学ぶ機会が求められている。今後も東北各県で学び合いの機会を創出していくこと、実施にあたっては地域の主体との協働と、地域事例の発掘が課題となる。
- ・多様な連携をつなぐために、重層的なネットワーク構築が継続課題である。

（２）関連団体との情報交換等

団体名	開催日	開催形態	概要
生活クラブ連合会	4/19	対面	地域循環共生圏に関する情報交換
	1/19	オンライン	ローカル SDGs 勉強会に関する打合せ
財務省東北財務局	6/1	対面	ESG 金融および脱炭素に関する情報交換
	9/27	対面	ESG 金融シンポジウムに関する打合せ
	11/26	ハイブリット	ESG 金融シンポジウムに関する打合せ
ユキノチカラプロジェクト協議会	6/10	オンライン	金融庁連携チームによる事業勉強会
北上信用金庫	6/24	対面	取組ヒアリングおよび地域循環共生圏に関する情報交換
岩手銀行	6/16	対面	ESG 金融および脱炭素に関する情報交換
NPO 法人 SET	7/6	対面	取組ヒアリングおよび地域循環共生圏に関する情報交換
七十七銀行	8/26	対面	ESG 金融および脱炭素に関する情報交換
Iwate, the Last Frontier	10/6	対面	取組ヒアリングおよび地域循環共生圏に関する情報交換

（３）金融庁連携チームとの打合せ

持続可能な地域経済社会の活性化に向けて、金融庁監督局参事官と環境省大臣官房審議官を共同チーム長とする「持続可能な地域経済社会の活性化に向けた連携チーム」が新たに発足した（令和３年３月３１日）。地域課題の解決を通じた地域経済の活性化や、地域資源の活用を通じた持続可能な地域社会づくりに資する取組みを支援するため、東北地方の事例等について情報交換を行った。

参加団体	開催日	開催形態	概要
金融庁監督局総務課地域課題解決支援室 環境省大臣官房環境経済課環境金融推進室 東北地方環境事務所 EPO 東北	4/21	オンライン	金融庁の取組みおよび地域循環共生圏プラットフォーム事業の東北事例に関する情報交換
	5/26	オンライン	連携チームの取組みおよびユキノチカラプロジェクトに関する情報交換

③ -2. 事業検討会議への参加

会議名	開催日	開催形態	概要
事業検討会議 (2 回)	9/22 2/8	オンライン	目的：各地方の取組み情報を共有し、幅広いステークホルダー間のパートナーシップの形成や案件形成の取組みに関係のある課題を相互参照し、改善策を見出すための一助とする。また関係構築に不足している情報を補完する。 参加：環境省民間活動支援室・環境計画課、地方事務所、地方 EPO、GEOC
情報交換会 (2 回)	11/30 1/26	オンライン	目的：NPO や小規模事業者の立場から、地域課題の解決（ローカル SDGs の達成）に向けて地域金融機関とパートナーシップを組んでいく際に、有効となる対話のポイントや知識を取得する。 参加：環境省民間活動支援室・環境計画課、地方事務所、地方 EPO、GEOC 備考：他の業務対応のため欠席。後日、共有された録画を視聴することで対応した。



金融庁連携チームとの打合せ（5/26）



ESG 金融シンポジウムに関する打合せ（11/26）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号 4-（１）- 工）

●事業背景

東日本大震災後に EPO 東北が取り組んだ「3.11 あの時」ヒアリングをきっかけに、平成 23（2011）年度より再生可能エネルギー交流会を開催し、地域における自立分散型のエネルギーのあり方を議論してきた。平成 26（2014）年度からは地域開催型交流会へと形を変え、地域のキーパーソンとなる団体と協働で「みちのく薪びと祭り」を開催してきた。令和元（2019）年度に東北 1 巡を達成し、東北ならではの地域性を強く意識した一体感が生まれている。令和 2 年度からみちのく薪びと祭り 2 巡目を企画していたが、新型コロナウィルス感染症予防の観点から開催を自粛している。

●課題

みちのく薪びと祭りは密集しての会合であり、車座の議論を通して独自のネットワークを形成してきた。新しい生活様式の観点からこれまでと同じスタイルでの開催が難しい一方で、現地での学び合いと相互交流を軸とする交流会型事業であることからオンライン実施は事業の内容に適さない点が課題である。

●プロジェクト概要

- ・キーパーソンのうちの 1 人が、地域循環共生圏の推進に資するプロジェクトを展開していることから、現地視察を行う。
- ・これまでの成果を改めて振り返り、みちのく薪びと祭り開催後の地域の変容など、アウトカムの共有を行い、2 巡目開催に向けた意識共有と合意形成を図る。

●EPO 東北のアプローチ

- ・みちのく薪びと祭りの開催が地域にもたらした波及効果など「アウトカム」に関する検証が課題となっていたことから、これまでの振り返りと整理を行った。
- ・2 巡目開催に向けた協働の形、新たに巻き込むべきステークホルダーを議論する。

開催概要

催事名	キーパーソン会議
開催日	R3/10/20（水）
場所	オンライン会議
参加者	12 名
主催	EPO 東北
内容	（１）参加者の近況報告 （２）鳴子視察について ・視察の主旨説明 ・視察先での議論について

催事名	みちのく薪びと祭り 鳴子視察&キーパーソン会議
開催日	R3/11/12（金）
場所	サステナヴィレッジ鳴子、エコラの家 （宮城県大崎市）
参加者	22 名
主催	EPO 東北
協力	NPO しんりん 鳴子温泉もりたびの会 GEOC
内容	（１）VESTA プロジェクト現地視察 （２）みちのく薪びと祭りキーパーソン会議 「みちのく薪びと祭り」今後の可能性と次年度からの企画立案 【ファシリテーター】 GEOC 江口健介氏



VESTA プロジェクト現地視察（11/12）



キーパーソン会議（11/12）

●事業総括

【成果】

- ・顔の見える関係性であること、取組みの価値を新しい視座で学び直す機会であることなど、改めて事業の役割と意義を関係者間で確認することができた。
- ・2 巡目は新しい参加者を巻き込むことで、人材を掘り起こしながらネットワークをつなぎ、みちのく薪びと祭りの運営の世代交代も視野に入れて進めることが合意された。

【課題】

- ・オンライン開催ではみちのく薪びと祭りの役割が果たせないとの共通認識があり、開催はコロナウィルス感染症の状況に大きく左右される。
- ・2 巡目の運営にあたってはキーパーソンの世代交代はやむを得ないことから、新たな人材発掘と関係構築が必要である。年々業務量が増加する中で、事務局の対応は検討課題となる。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等（仕様書番号 4-（２）- ア）

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
議長	見上一幸	（公社）仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
委員	浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携センター主任運営員（運営統括）
	市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教育領域機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長
	渋谷晃太郎	岩手県立大学 総合政策学部環境政策講座 教授
	福岡真理子	（一社）あきた地球環境会議 事務局長、地域 ESD 活動推進拠点
	細谷健司	青森県 環境生活部 環境政策課 課長
	村上利通	福島県 生活環境部 生活環境総務課 課長

●委員会の開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 1 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R3/7/13（火）
会場	オンライン会議
参加者	24 名（委員 7 名）
内容	（１）EPO 東北事業検討委員会 ①令和 3 年度事業計画について ②意見交換 （２）東北 ESD センター企画運営委員会 ①令和 3 年度事業計画について ②意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 2 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R4/2/7（月）
会場	オンライン会議
参加者	27 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	（１）EPO 東北事業検討委員会 ①令和 3 年度事業報告 ②意見交換 （２）東北 ESD センター企画運営委員会 ①令和 3 年度事業報告 ②意見交換 （３）運営第 5 期総括 ①総括報告 ②意見交換 【ファシリテーター】 EPO ちゅうごく統括 松原裕樹氏

2) ESD 活動に関する相談・支援窓口対応（仕様書番号 4-（２）- イ）

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	6/11	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD / RCE 推進委員会	令和 3 年度 第 1 回気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会
2	9/6	オンライン	仙台ユネスコ協会	キリバス共和国 War Memorial 小学校と 気仙沼市立鹿折小学校 交流学习
3	9/28			
4	11/12			
5	11/19			
6	11/5	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 宮城教育大学 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会	気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2021
7	12/4	秋田県 横手市	秋田県南 NPO センター	みんなで考えよう～地球温暖化で秋田に住めなくなる！？自分たちができることは？～
8	1/14	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD / RCE 推進委員会	令和 3 年度 第 2 回気仙沼 ESD/ ユネスコスクール研修会
9	1/29	宮城県 仙台市 ハイブリット	宮城教育大学 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	2021 年度 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 児童生徒の探究型学習・課題研究発表会
10	2/2	秋田県 大仙市	大仙市立大曲南中学校	ESD/SDGs 講演会・ワークショップ ～気候変動の現状と適応を当事者意識をもって考える～
11	2/19	宮城県 仙台市 ハイブリット	宮城教育大学 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 第 4 回学び合いセミナー

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

２）ESD 活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号 4-（２）-イ）

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	2021/3/1 ～ 2023/2/28	全国	三菱広報委員会 アジア太平洋ユネスコ協会倶楽部連盟 (公財) 日本ユネスコ協会連盟	三菱アジア子ども絵日記フェスタ 2021-2022
2	5/23～8/1	全国	(一社) 日本若者協議会	日本版気候若者会議
3	8/9～8/11 11/6	山形県 山形市	奈良教育大学	ESD ティーチャープログラム 山形開催
4	1/29	オンライン	(公社) 仙台ユネスコ協会	キリバス民間ユネスコ協会設立支援準備プロジェクト 気候危機最前線の国キリバス共和国と共に ～キリバス×仙台 オンライン文化交流会～

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	6/18	山形県 山形市	山形市教頭会	教頭会 SDGs 勉強会 ※会場が新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場となったため中止
2	7/20	山形県 東根市	東桜学館高等学校	高校 1 年生対象 国際理解講演会
3	7/31	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 宮城教育大学	2021 年度コンソーシアム第 1 回学びあいセミナー
4	9/7	オンライン	福島県県中地方振興局	令和 3 年度地球にやさしい“ふくしま”県民会議県中地方会議
5	9/8	オンライン	山形県教育センター	令和 3 年度 山形県教育センター専門研修 ESD、SDGs の授業づくり講座
6	10/8	オンライン	(一社) 秋田犬ツーリズム	秋田犬ツーリズムエリア内 事業者向け SDGs セミナー
7	11/10	山形県 上山市	上山市小中学校教育研修会	上山市小中学校教育研修会 社会科部会
8	11/25	秋田県 鹿角市	鹿角地域振興局	鹿角地域教育旅行関係者 SDGs セミナー
9	12/21	宮城県 蔵王町	みやぎ教育旅行等 コーディネート支援センター (公財) 宮城県観光連盟	教育旅行受け入れプログラム検討会 ※参加申し込み状況を鑑みて中止
10	1/18	オンライン	山形県教育センター	令和 3 年度山形県高等学校初任者研修 第 6 回県教育センター研修
11	1/27	宮城県 蔵王町	みやぎ教育旅行等 コーディネート支援センター (公財) 宮城県観光連盟	教育旅行受け入れプログラム検討会 ※新型コロナウイルス・オミクロン株流行のため中止

催事参加等

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	10/2	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 宮城教育大学	2021 年度コンソーシアム第 2 回学びあいセミナー
2	2/19	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 宮城教育大学	2021 年度コンソーシアム第 4 回学びあいセミナー

3) ESD 活動に関する域内情報の収集及び域内外への情報提供（仕様書番号 4-（2）-ウ）

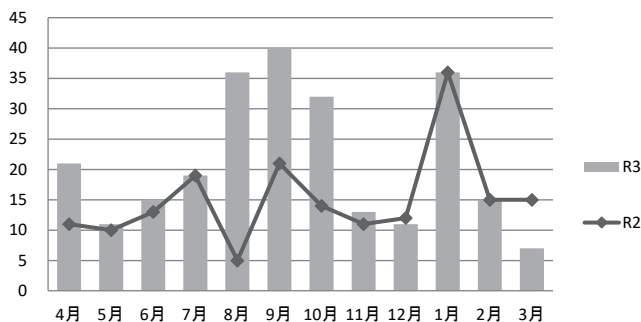
●情報収集

EPO 東北事業と同様に新型コロナウイルス感染症予防の観点から、対面による情報収集は感染状況を鑑みながらの判断とし、既存のネットワークを通じて人や組織を紹介してもらい、地域の活動情報の収集に取り組んだ。

ウェブサイト

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 21.3 件

ページビュー数



※メールマガジン、機関誌は EPO 東北事業報告 (P32) を参照

●情報発信

ウェブサイトやメールマガジンを活用し、ESD、SDGs に関する情報、関係機関の動向、公募や助成金情報等の発信に努めた。メールマガジンおよび広報紙については EPO 東北事業と併用し、業務の効率化を図っている。

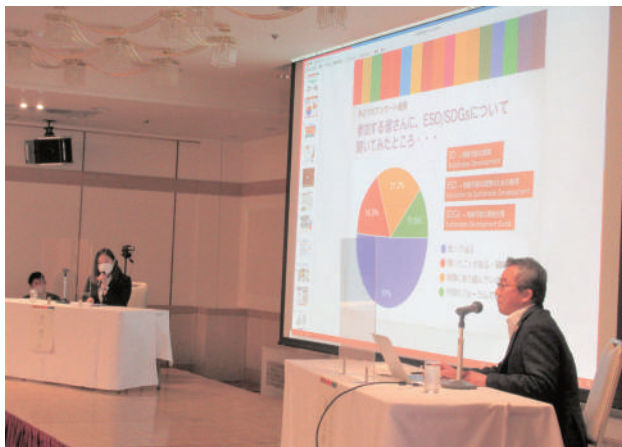
●事業総括

【成果】

- ・ウェブサイト管理において更新頻度を上げるために事務局体制を見直し、数日毎に新しい情報が掲載される状態の維持に努めた。
- ・オンライン会議と対面によるヒアリングを組み合わせることで、情報収集を行いながらネットワーク構築に努めた。

【課題】

- ・全国センターより年度当初にウェブサイト改修方針が示されたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で業務が遅延し、センター間で合意形成の場が開かれていない。このため本年度はウェブサイトコンテンツの見直しを保留とした。次年度以降の課題となる。



東北 ESD / SDGs フォーラム 2021 (10/17)



東北 ESD / SDGs フォーラム 2021 (10/17)



東桜学園高校 国際理解講演会 (7/20)



上山市小中学校教育研修会 社会科部会 (11/10)

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

4) 地域 ESD 拠点の登録及び支援（仕様書番号 4-（２）- エ）

●地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）について

ESD 推進ネットワーク※の趣旨に賛同して地域の ESD を支援する組織や施設に登録いただく登録制度で、地方センターのパートナーとして、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。

※ ESD 推進ネットワーク：ESD の広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりを目指す SDGs 達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

〔構成〕 ESD 活動支援センター
地方 ESD 活動支援センター（８カ所）
地域 ESD 拠点



●〔全国〕登録団体 154 件（R3/12/24 現在）

●〔東北〕登録団体 16 団体（R2 年度：14 団体）

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2		八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
3	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
4		（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
5	宮城	（公社）仙台ユネスコ協会
6		気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
7		（一社）日本キリバス協会 【R3 新規登録】
8		（一社）あきた地球環境会議
9	秋田	認定 NPO 法人 環境あきた県民フォーラム
10	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
11		NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
12		福島工業高等専門学校
13		只見町教育委員会
14	福島	会津ユネスコ協会
15		いわきユネスコ協会
16		（独）国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家 【R3 新規登録】

5) 全国センターとの連携協力の推進等（仕様書番号 4-（２）- オ）

①全国センター企画運営委員会

催事名	第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R3/6/22（火）
会場	オンライン会議
内容	（１）ESD 活動支援センター 2020 年度事業報告 （２）ESD 推進支援センター 2021 年度事業について ・ネットワーク可視化タスクフォース ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト（仮） ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム

催事名	第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会
開催日	R4/2/17（木）
会場	オンライン会議
内容	（１）ESD 活動支援センターの 本年度主要事業について（報告） ・ESD 活動支援センター（全国・地方）活動状況 ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム ・ネットワーク可視化タスクフォース （２）ESD 推進ネットワークの 今後の方向性について

② ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

催事名	第 1 回 ESD 活動支援センター （全国・地方）連絡会
開催日	R3/5/27（木）
会場	オンライン会議
内容	（１）ESD を巡る最近の動向について ・文部科学省より ・環境省より （２）地域拠点アンケートについて （３）全国フォーラムの日程・会場について （４）「分科会」活動について

催事名	第 2 回 ESD 活動支援センター （全国・地方）連絡会
開催日	R4/1/26（水）
会場	オンライン会議
内容	（１）2021 年度活動状況の共有 ①地方センター ②全国センター （２）2022 年度環境省・文部科学省の施策の方向性 （３）ESD 活動支援センターウェブサイトの今後の方針について （４）2021 年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」総括 （５）ESD 推進ネットワークの今後の方向性について

③ ESD 推進ネットワーク全国フォーラム

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2021 ESD for 2030 のキックオフ ー脱炭素社会づくりに向けた ESD 推進ネットワークの役割ー		
開催日	R3/12/11 (土)		
会場	オンライン会議		
参加者	約 100 名		
主催	ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省		
内容	1. 基調講演「国内外の ESD 推進の動向と ESD 推進ネットワークの役割」 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 河村裕美氏 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室環境教育推進企画官 浅原堅祐氏 2. パネルディスカッション「脱炭素時代に求められる ESD 推進ネットワークの姿とは」 【パネリスト】 白井信雄氏 山陽学園大学地域マネジメント学部 教授 進藤由美氏 (公財) ユネスコ・アジア文化センター国際交流部 / 総務部 部長 飯田貴也氏 NPO 法人新宿環境活動ネット 代表理事 関正雄氏 損害保険ジャパン (株) サステナビリティ推進部シニアアドバイザー 服部乃利子氏 静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター次長 【モデレーター】 佐藤真久氏 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 3. 分科会「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の挑戦 分科会①脱炭素社会づくりと ESD ～気候変動教育と、拠点の学び合い～ 【運営：北海道センター・近畿センター】 【進行】 久保田学氏 北海道地方 ESD 活動支援センター 中澤敦子氏 近畿地方 ESD 活動支援センター 【パネリスト】 高橋敬子氏 立教大学 ESD 研究所 特任研究員 福岡真理子氏 (一社) あきた地球環境会議 理事・務局長 吉田美和氏 京都市立紫明小学校 教諭 南哲朗氏 奈良町資料館 館長 【コーディネーター】 中澤静男氏 奈良教育大学 准教授 分科会② SDGs を活用した教育×地域のチャレンジ 【運営：東北センター・中国センター・九州センター】 【進行】 坂本紀子氏 九州地方 ESD 活動支援センター 濱長真紀氏 中国地方 ESD 活動支援センター 【事例報告】 内藤恵子氏 (公社) 仙台ユネスコ協会 副会長 角俊一氏 島根県環境生活部環境政策課 企画員 岡裕二氏 熊本市立城南中学校 地域コーディネーター 【コメンテーター】 見上一幸氏 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員長 【コーディネーター】 鈴木美紀子 東北地方 ESD 活動支援センター 分科会③地域に根差した多様な SDGs 人材育成 【運営：関東センター・中部センター・四国センター】 【進行】 島田幸子氏 関東地方 ESD 活動支援センター 【パネリスト】 建元喜寿氏 筑波大学附属坂戸高等学校 教諭 水上聡子氏 アルマス・バイオコスモス研究所 代表 松浦英人氏 (一社) そらの郷 課長 【コーディネーター】 堺勇人氏 (一社) 環境市民プラットフォームとやま 事務局長 4. 全体総括「ESD 推進ネットワークが取り組みたいこと」 【進行】 広石拓司氏 (株) エンパブリック 代表取締役 【コメンテーター】 及川幸彦氏 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員 【報告者】 服部乃利子氏 静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター次長 高橋敬子氏 立教大学 ESD 研究所 特任研究員		

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

⑤ 全国センターとの連携協力の推進等（仕様書番号 4-（２）- オ）

④ ESD 国内実施計画説明会

催事名	第２期 ESD 国内実施計画（案）説明会
開催日	R3/4/26（月）
会場	オンライン会議
主催	ESD（全国・地方）活動支援センター
内容	（１）趣旨説明 （２）第２期 ESD 国内実施計画について 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 石田善顕氏 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長 三木清香氏 （３）質疑応答



第２期 ESD 国内実施計画（案）説明会（４/26）

⑤ ミッション・ビジョン再構築ミーティング

催事名	ESD 推進ネットワーク ミッション・ビジョン再構築ミーティング
開催日	R3/8/6（金）
会場	オンライン会議
参加者	環境省環境教育推進室、地方環境事務所、全国 ESD 活動支援センター、地方 ESD 活動支援センター
内容	（１）行政レビューロジックモデルについて （２）意見交換



ESD 活動支援センター打合せ（１/12）

⑥ ヒアリング・事例集打合せ

催事名	ヒアリング・事例集打合せ
開催日	R3/9/6（月）
会場	オンライン会議
参加者	環境省環境教育推進室、全国 ESD 活動支援センター、地方 ESD 活動支援センター
内容	（１）ESD ネットワークの課題抽出と 展望に関するヒアリング候補について （２）ESD ネットワーク優良事例集掲載事例 について （３）行政事業レビュー等指摘対応

⑦ ESD 活動支援センター打合せ

催事名	オンライン打合せ
開催日	10/7、10/21、11/4、11/18、12/2、 12/16、1/12、1/18
会場	オンライン会議 ※ 1/12 のみ対面 GEOC（東京都渋谷区）
参加者	環境省環境教育推進室、全国 ESD 活動支援センター、地方 ESD 活動支援センター
内容	・全国フォーラム企画調整 ・ヒアリングの実施について、他

6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会提供（仕様書番号 4-（2）- カ）

ESD for 2030 学び合いプロジェクト

●事業背景

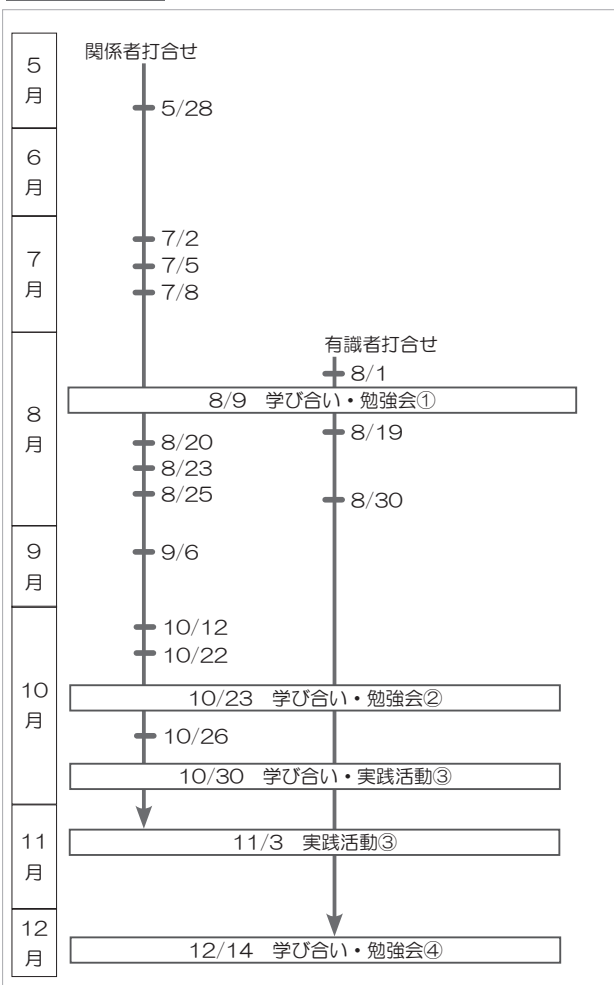
2021 年 5 月に策定された第 2 期 ESD 国内実施計画に「テーマ別の学び合いの仕組みづくり」が位置づけられ、ESD 推進ネットワークの新たな活動として「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」が 3 ヶ年事業としてスタートした。特定のテーマや課題に関心を有する様々な主体が地域を越えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取組みを全国に広めていくことを目的としている。

全国 8 力所の地方 ESD 活動支援センターが、地域の課題や各センターの強みを考慮してテーマを設定し、プロジェクトの運営を行う。

●課題

- ・全国 154 件、東北内 16 件の地域 ESD 活動推進拠点（以下、地域 ESD 拠点）が登録されているが、拠点間の連携や地域内外の学び合いの場がない。
- ・東北地方 ESD 活動支援センターでは、山形県内におけるネットワークや ESD 事例の収集、活動に取り組む主体との関係構築に課題を抱えている。

事業プロセス



●企画趣旨

- ・ ESD に関心のある教育関係者、NPO 等の参加を促し、実践者のすそ野を広げネットワークの拡充を図る。
- ・ 山形県の素材を取り上げることで、山形県内で ESD / SDGs に関心のある層に働きかけ、ESD に関する取組みの活性化を促す。

●東北 ESD センターのアプローチ

- ・ 事業検討委員および企画運営委員と連携し、発表事例に対して ESD の視点からコメントを添えることで活動の意味や価値を再認識する場作りを行った。
- ・ プロジェクトをきっかけに ESD に取り組む人材や組織、事例の発掘に努めた。
- ・ 新たなネットワークをつなぐため、山形県内で ESD に取り組む多様な主体に働きかけ、事例発表や広報で協力をいただき、ESD に関心のある層の参加を促した。

【プロジェクトに協力いただいた委員（敬称略）】

●全体コーディネーター

市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 国際教育領域機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
------	---

●有識者

藤公晴	青森大学社会学部 教授、青森大学 SDGs 研究センター長
新妻弘明	東北大学名誉 教授、日本 EIMY 研究所所長
見上一幸	(公社) 仙台ユネスコ協会 会長、宮城教育大学 名誉教授
浅野亮	気仙沼市・宮城教育大学連携センター 主任運営員（運営統括）
齋藤修一	只見町教育委員会 元教育長
渋谷晃太郎	岩手県立大学 総合政策学部環境政策講座 教授



企画打合せ（5/28）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会提供（仕様書番号 4-（２）-力）

●学び合い・勉強会①

催事名	オンライン企画打合せ・顔合わせ	
開催日	R3/8/9（月）	
会場	オンライン会議	
参加者	13 名	
やまがた SDGs・ESD 研究会	新宮清氏	奈良市立平城小学校 教諭
	阿部友幸氏	山形大学附属特別支援学校 高等部 教諭
	岡崎亮氏	山形市立第三小学校 教諭
	阿部大輔氏	山形市立千歳小学校 教諭
	佐藤亨樹氏	上山市立南小学校 教諭
	太田馨氏	
	近野巧氏	天童市立寺津小学校 教諭
	川合真澄氏	東海大山形高等学校 教諭
	大西浩明氏	奈良教育大学 次世代教育 養成センター 特任准教授
	市瀬智紀氏	宮城教育大学 教員キャリア 研究機構 機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コ ンソーシアム運営委員長
	原田和昭	環境省東北地方環境事務所 環境対策課
内容	・事業主旨説明、企画概要説明 ・やまがた SDGs・ESD 研究会メンバー紹介 ・スケジュール共有	



オンライン企画打合せ・顔合わせ（8/9）



ESD for 2030 学び合いプロジェクト
地域の素材（山形）から考える ESD/SDGs 教育の可能性 チラシ

●学び合い・勉強会②

催事名	ESD for 2030 学び合いプロジェクト 地域の素材（山形）から考える ESD/SDGs 教育の可能性【地域編】	
開催日	R3/10/23（土）	
会場	オンライン配信	
主催	東北地方 ESD 活動支援センター	
協力	山形県教育センター	
参加	27 名 ※地域 ESD 拠点の参加：只見町教育委員会、 （公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワ ーク、NPO 法人環境パートナーシップいわ て、（一社）あきた地球環境会議、いわき ユネスコ協会	
内容	事例 紹介	①「自治組織が取り組む！ 地域循環共生圏・ローカル SDGs」 鶴岡市三瀬地区自治会 石塚慶氏 ②やまがたヤマネ研究会 中村夢奈氏 ※事前動画収録の上、ビデオ出演
	全体ディスカッション 【コーディネーター】市瀬智紀氏 【話題提供】 ①リコージャパン（株）山形支社 佐藤亮敏氏 ②旭川ユネスコ協会 林朋子氏	



勉強会②【地域編】（10/23）

参加者
の声

- ・課題の同時解決、連携の動機、先生方の視点等を知り、ESD/SDGs 教育の可能性を感じましたが、一方で実践や持続性に難しさもありました。
- ・どの事例も、地方の課題に地道に取り組んでいて感銘を受けました。地域の営みと連携することが継続に繋がり、そこに地域の営みを教育に生かす価値があるとのコメントに気づきをいただきました。
- ・本日の学びをまずは自分の中で整理していきたいです。その上で、ESD の実践につなげていきたいです。
- ・地元の素材で ESD/SDGs 教育の可能性を探るというテーマにぴったりの内容で大変勉強になりました。
- ・教諭としてどう地域と関わっていくのか。求められる役割や責任について、改めて考えさせられました。

●学び合い・勉強会③

催事名	ESD for 2030 学び合いプロジェクト 地域の素材（山形）から考える ESD/SDGs 教育の可能性【学校編】
開催日	R3/10/30（土）
会場	オンライン配信
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
協力	山形県教育センター
参加	20 名 ※地域 ESD 拠点の参加：只見町教育委員会、 （公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワー ク、（一社）あきた地球環境会議、会津ユ ネスコ協会、いわきユネスコ協会
内容	事例紹介 ①「地域の人とつながり県産材を通 して山形の森林を元気にしよう」 山形大学附属特別支援学校高等部 教諭 阿部友幸氏 ②「わたしたちの生活と食料生産」 山形市立第三小学校 教諭 岡崎亮氏 ③「千歳の伝統とわたし」 山形市立千歳小学校 教諭 阿部大輔氏 全体ディスカッション 【コーディネーター】市瀬智紀氏



勉強会③【学校編】（10/30）

参加者の声	・それぞれが地域のネットワークを生かしてま さに ESD の学びを行っていることがとても 素晴らしいと思いました。 ・良い取組みを、より広く伝えてほしい ・達成感や見通しを意識した ESD プログラム を提供し、生徒の自己肯定感向上に繋げたい！ ・素晴らしい事例を紹介してくださりありが とございました。 ・こういった教育活動を強力に推進していくた めに、多忙な先生方を後押しする文科省や教 育委員会の更なる支援が欲しいものです。
-------	---

●実践活動

催事名	ESD for 2030 学び合いプロジェクト 地域の素材から考える ESD/SDGs 教育の可能性【東北の実践事例に学ぶ】
開催日	R3/11/3（水・祝）
会場	オンライン配信
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
協力	山形県教育センター
参加	45 名 ※地域 ESD 拠点の参加：只見町教育委員会、（公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、会津ユ ネスコ協会、いわきユネスコ協会、仙台ユネスコ協会、（一社）あきた地球環境会議、（一社）日本キリバ ス協会、八戸工業大学第二高等学校、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会
内容	事例紹介 ①「キリバス共和国を通して見える世界の未来と日本の役割」 ・（公社）仙台ユネスコ協会副会長 内藤恵子氏 ・仙台市立六郷小学校 教諭 芳賀航氏 ・（一社）日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ氏 ②「地域と連動した防災教育」 気仙沼市立階上中学校 教諭 大野実沙氏 ③地域とともに学び行動する 只見中学校～海と山から学ぶ～ 只見町立只見中学校 教諭 目黒英樹氏 ④ ESD/SDGs からつながるあおもりの輪 青森県（市）地球温暖化防止活動推進員 貝森毅彦氏 全体ディスカッション 「地域と連携した ESD の意味／意義」 【コーディネーター】市瀬智紀氏 【講評】東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員長 見上一幸氏
参加者の声	・学校や一教員が単一で活動するのではなく、地域と協力して地域の問題を解決する過程で子供が学ぶと いうことは、今後参考にしていきたいと思います。 ・見上先生がおっしゃっていた「ことばに責任を持つ子ども」への成長が印象に残りました。 ・ESD/SDGs の取組みには、「地域を変える」力があるということを示していただけたと感じています。 触発されました。 ・東北各地域で、ESD/SDGs 教育が活発に実践されていらっしゃる事が分かりました。今後、自分が できることを考えたいと思います。 ・大変素晴らしい機会だと思います。東北の方々の熱意を感じることができました。こうした優れた実践 に学ぶ場を設けていただいたセンターの皆様に感謝申し上げます。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

6) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会提供（仕様書番号 4-（２）-力）

●学び合い・勉強会④

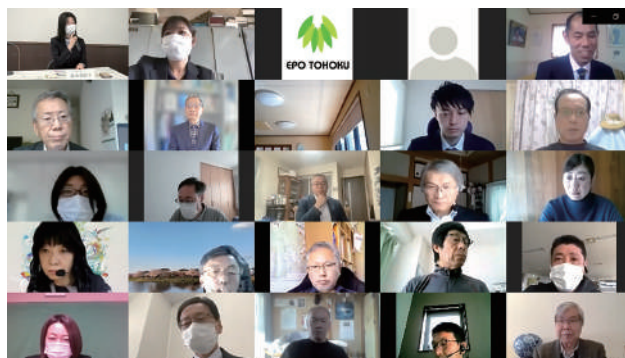
催事名	振り返り会議
開催日	R3/12/14（火）
会場	オンライン会議
参加者	9 名 （全体コーディネーター、有識者、東北地方環境事務所、東北地方 ESD 活動支援センター）
内容	（１）全体振り返り、感想の共有 （２）今後の課題、発展についての議論
主な意見	・成功した試みと思う。自分がやっていることを発表する場があることで取組みの意味付けや価値を認識する機会となり熱のこもった会になった。 ・短期集中型の開催が効果的だった。地域発信の取組み、学校発信の取組みをそれぞれ取り上げることで双方向の発信ができた。 ・この機会にこれまでつながりのなかった取組みを発掘できた。また、発表によって活動が認知され、評価された。 ・「どう取り組んで良いかわからない」という声に光を当て、学校教育の側面から深まりがあった。 ・開催後の広がりについて後追いができるとなお良い。



勉強会④振り返り会議（12/14）



実践活動【東北の実践事例に学ぶ】事例発表者（11/3）



実践活動【東北の実践事例に学ぶ】（11/3）



実践活動【東北の実践事例に学ぶ】事例発表（11/3）

●事業総括

【成果】

- ・2 週間の間に計 3 回のオンラインセミナーを行う短期集中型の開催により、参加者の熱量を損なわずに学びを深めることができた。
- ・地域の事例に対して有識者から ESD 視点のコメントを頂くことで取組みの価値が認識され、ESD 活動の本質を議論する場を形成できた。
- ・山形県で ESD に取り組む人や組織を発掘し、これまでつながりの少なかった山形県内でのネットワークを広げることができた。
- ・実施にあたっては多くの方の協力を得ることができた。東北 ESD センター設置から 5 年の間に広げてきたネットワークの力が現れたプロジェクトとなり、大きな成果を感じることができた。

【課題】

- ・本プロジェクトは地域 ESD 拠点同士の学び合いを目的に全国 8 カ所の地方 ESD センターが実施した。東北ブロックの地域 ESD 拠点からの参加はあったが東北以外からの参加はなく、地方 ESD センターと連携した広報など、参加を促す工夫が必要である。
- ・参加者からは「どう実践すればいいのかわからない」との声が多く寄せられた。現場の悩みに対してどのようなアプローチを行っていくのか、今後の継続課題となる。
- ・有識者からは ESD に関する試行錯誤を学び合う場の設定や、公民館や企業が取り組む社会教育の側面が弱いと指摘があった。ニーズに合わせた企画や、連携が弱い分野への働きかけが課題となる。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

7) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号 4-（２）-キ）

●事業背景

持続可能な社会の実現に向けて、ESD に関わるマルチステークホルダーが地域における取組みを核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進することを目的として、ESD 活動支援センターでは「ESD 推進ネットワーク」の構築を目指している。

ESD をより一層推進することが SDGs 達成に直接・間接につながるものと捉え、多様なステークホルダーによる相互交流の学び合いを通して、地域ネットワークの形成を構築する機会が求められる。

●課題

- 青森県内では ESD や SDGs について十分に認知が広がっておらず、学びと交流の機会が求められている。
- 人材育成の観点から教育の視点を持ちつつ、SDGs の視点から企業や民間団体にもメリットがあるテーマ設定が必要となる。
- 催事の開催形式が全国的にオンラインやハイブリット型へと変容している。ハイブリット型の開催については、会場とオンライン双方に臨場感のある企画の模索が課題となる。

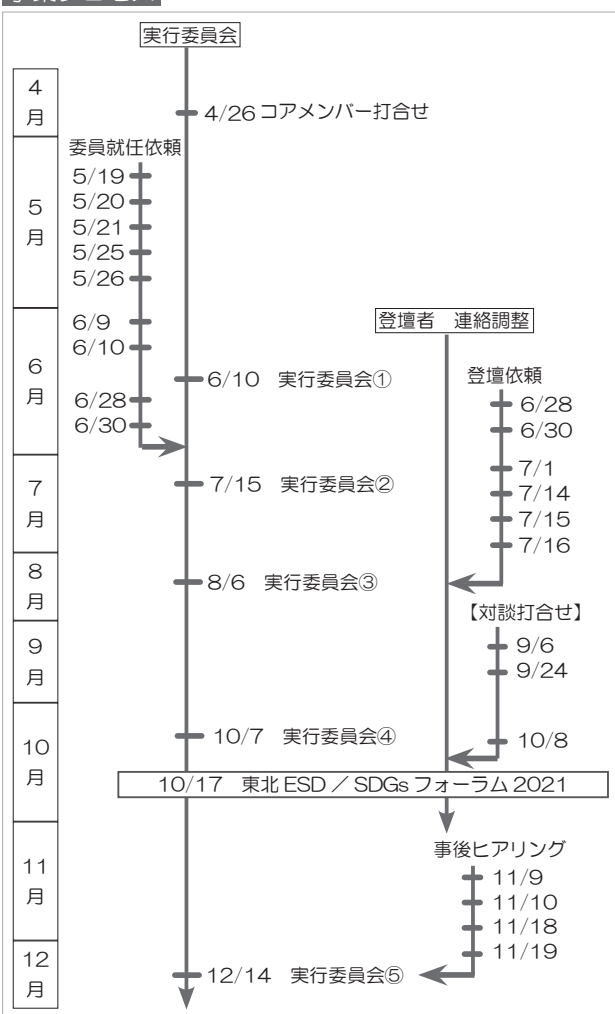
●企画趣旨

- 持続可能な社会の実現に向けた「人づくり」をテーマとして、ESD/SDGs に関心のある各主体を対象に、具体的な取組事例を学ぶ機会を創出する。また、分野の垣根を超えた連携の意義と可能性を考える機会とする。
- 青森県の資源や文化、環境、人など「あおりポテンシャル」を発信、紹介する機会とする。

●東北 ESD センターのアプローチ

- 地域 ESD 拠点である NPO 法人青森環境パートナーシップセンター、八戸工業大学第二高等学校を中心に、行政、企業、教育機関、NPO 等の巻き込みを図り、実行委員会を立ち上げた。
- 実行委員会での意見を踏まえ、事例紹介者を青森県の全域に、また発表者全体で SDGs の 17 のゴール目標を網羅できる選定を行った。
- 昨年度に引き続き、場面転換を利用して CM 動画の配信を試みた。青森県以外で ESD や SDGs に取り組む団体や個人に登場いただき、東北における ESD 活動の広がりが感じられるよう構成に配慮した。

事業プロセス



打合せ（4/26）



第2回実行委員会（7/15）

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

7) 東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号 4-（２）-キ）

【東北 ESD/SDGs フォーラムあおもり 実行委員会】

●名簿（敬称略、順不動）

氏名	所属・役職
藤公晴	青森大学社会学部 教授、 青森大学 SDGs 研究センター長
佐々木豊志	青森大学経営学部 教授、 青森大学観光文化研究センター長
長南幸安	弘前大学 教育学部 教授
坂上尚子	八戸工業大学第二高等学校 教諭
藤澤諒	
工藤健	青森市市議会議員 青森市立東中学校区学校運営協議会
柴田一宏	青森市立浜田小学校 校長
藤田裕司	階上町立道仏小学校 校長
渋谷拓哉	青森県環境パートナーシップセンター 代表理事
三浦麻子	青森県環境パートナーシップセンター 事務局長
内山一	（一社）青森県ユネスコ協会 理事兼事務局長
小山内世喜子	（一社）男女共同参画地域みらいねっと 代表理事
遠藤克敏	青森県 環境生活部 環境政策課 環境管理グループ 総括主幹
築館雅樹	青森県教育庁学校教育課 小中学校指導グループ 指導主事
角田毅	青森市教育委員会事務局指導課 課長
小田切勇治	（協組）青森総合卸センター 業務部長
貝森毅彦	青森県（市）地球温暖化防止活動推進員
原田和昭	環境省東北地方環境事務所 環境対策課

【CM 動画協力団体】

※場面転換時 40 ～ 60 秒程度の動画を配信

千葉浩氏	LSC ランゲージサービスセンター 代表取締役
ガッティ氏	マジシャン
ワッキー貝山氏	タレント
穀田千賀子氏	サイレントボーカリスト 東北弁民話の語り部
長谷川康氏	仙台フィルハーモニー管弦楽団 バイオリン奏者
eyeron 氏	Sonar Pocket（ソナーポケット）
中野柊一郎氏	manaco 代表
小野寺真氏	にじいろ CANVAS 共同代表
こぐま氏	役員

【メディア連携】 ラジオ番組での告知

コミュニティ FM「RADIO3」

「トーク&トーク」10/12（火）17：00～17：30

【催事広報】

青森市発行「広報あおもり」

情報ひろばに掲載

第 1 回実行委員会

開催日	R3/6/10（木）
会場	ハイブリット会議 みどりやビル 8 階会議室（青森県青森市）
参加	20 名
内容	（１）委員自己紹介 （２）企画についての議論 （３）今後のスケジュール共有

第 2 回実行委員会

開催日	R3/7/15（木）
会場	ハイブリット会議 みどりやビル 8 階会議室（青森県青森市）
参加	18 名
内容	（１）事例紹介について （２）催事タイトルについて （３）広報の確認

第 3 回実行委員会

開催日	R3/8/6（金）
会場	ハイブリット会議 青森県環境パートナーシップセンター事務所 （青森県青森市）
参加	16 名
内容	（１）広報チラシについて （２）全体スケジュールの共有 （３）広報の確認

第 4 回実行委員会

開催日	R3/10/7（金）
会場	ハイブリット会議 みどりやビル 8 階会議室（青森県青森市）
参加	18 名
内容	（１）役割分担の確認 （２）アンケート内容確認

第 5 回実行委員会

開催日	R3/12/14（火）
会場	ハイブリット会議 みどりやビル 8 階会議室（青森県青森市）
参加	20 名
内容	（１）振り返り・感想共有 （２）今後の展開の議論



第 5 回実行委員会（12/14）

開催概要

催事名	東北 ESD / SDGs フォーラム 2021 みちのく SDGs in あおもり～人づくりから広がる SDGs の力～		
開催日	R3/10/17 (日)		
会場	ハイブリット開催 ウェディングプラザアラスカ 4F ダイヤモンド (青森県青森市) YouTube 配信		
主催	東北 ESD/SDGs フォーラムあおもり実行委員会		
共催	ESD / ユネスコスクール・東北コンソーシアム		
協力	オフィス e、アップルウェブ株式会社		
後援	日本ユネスコ国内委員会、青森市、青森市教育委員会 (公財) ユネスコアジア文化センター、ESD 活動支援センター 北海道・関東・中部・近畿・中国・四国・九州地方 ESD 活動支援センター		
参加	169 名 (会場：36 名、オンライン：89 名、関係者：44 名)		
内容	【総合司会】西川綾乃氏		
	開会あいさつ	東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員長 見上一幸氏 青森県環境生活部環境政策課長 細谷健司氏	
	対談型 講演	「ESD や SDGs を森視点から学ぼう！」 藤公晴氏 青森大学社会学部教授、青森大学 SDGs 研究センター長 × 西川綾乃氏	
	事例紹介	ショートプレゼンテーション「あおもりの事例に触れよう！」 【ファシリテーター】(一社) コクリエーションデザイン代表理事 平田裕之氏	
		①青森ねぶた SDGs プロジェクト 青森大学 SDGs 研究センター研究員 喜來大智氏	
		②八戸工業大学第二高等学校生 小笠原明李氏、久保亜衣氏、信山慶一郎氏、金澤虎彦氏	
		③合同会社むつつのたね代表社員 久保里砂子氏	
		④みちのく銀行 経営企画部広報室 室長 岩澤直樹氏	
		⑤(一社) 男女共同参画地域みらいねっと代表理事 小山内世喜子氏	
		⑥おおわに自然村生ハム工房 / (有) エコ・ネット 三浦浩氏	
⑦青森市立千刈小学校 教諭 工藤隆詩氏			
	⑧(一社) みらいねっと弘前代表理事 鹿内葵氏		
	⑨(協組) 青森総合卸センター業務部長 小田切勇治氏		
	全体質疑応答		
	講評	宮城教育大学教育学部 国際教育領域機構 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長 市瀬智紀氏	
	閉会あいさつ	岩館敏昭氏 (環境省 東北地方環境事務所 環境対策課長)	
参加者の声	・青森県すごいなと感動しました。様々な立場の方々が多様なつながりを広げる中で人づくり、しくみづくりをし、活動している状況を学ぶことができ勇気をもらいました。 ・色々な分野で活動されている皆さんがいて、様々な視点があることに気付きました。どう自分に活かせるかは、これから考えていきたいと思います。 ・学校として取り入れていく際に、地域ぐるみで活動していきたい。その際、地域を巻きこむための手立てや過程をじっくり考えてみたいと感じた。 ・SDGs 活動に取り組む団体それぞれの発表から (特に高校生の取組み) 各活動の輪が市民の方々に伝わっていくことで、2030 年、その先の未来の世界は持続可能な世の中になっているのではないか、希望を感じた。SDGs、ESD 活動の波がますます広まっていくように！ ・これからより多様な視点での SDGs の取組みが交流を通して発展していくことに期待しています。		

●事業総括

【成果】

- ・実行委員会を立ち上げて、青森県内全域から多様なステークホルダーが参画するネットワークを構築し、今後の活動の発展につながる基盤を作ることができた。
- ・昨年度に引き続き視聴者目線の企画を心がけ、対話型の講演会を実施した。青森の地域視点から ESD/SDGs について考えるアプローチをした結果、「地域目線での捉え方もあり理解が深まった」という声が多く寄せられた。
- ・事例紹介では青森県内のさまざまな分野の方にご登壇いただき、参加したことで ESD の学びが深まり、新たな視点を得る機会となったと好評を得た。

【課題】

- ・限られた時間の中で多くの取組みを紹介する仕掛けとしてショートプレゼンテーションを行ったが、たくさんの方の取組みを知ることができたと好意的な意見がある一方で、それぞれの事例を深く聞きたかったという意見も同程度あり、改善が求められる。
- ・登壇者のジェンダーバランスを指摘する声も寄せられており、ペーパーレスをはじめ SDGs の視点から催事の企画運営に関する見直しが課題となる。
- ・ハイブリット開催の場合の質疑応答の進め方など、オンライン活用については引き続きスキルアップおよび改善が課題となる。

Ⅲ - 3. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

8) ESD 推進地域研修（学習会）の開催（仕様書番号 4-（２）-ク）

●事業背景

東北では他地域に比べて ESD/SDGs に関する認知や取り組みの広がりが遅いと言われているが、一方で該当する活動を行っている企業や団体、教育機関等が多数存在する。地方 ESD 活動支援センターの役割として、地域の活動に目を向け、ESD 活動の促進と活性化を図り、活動のすそ野を広げることが期待されている。

●課題

- ・東北では本年度、地域 ESD 拠点の登録団体数が 16 団体となった。地域 ESD 拠点と東北 ESD センターの連携、また地域 ESD 拠点同士の連携のあり方が課題となっている。
- ・「SDGs を達成するための ESD」の位置づけから、教育現場において異分野との連携から生まれる取り組みが求められている。
- ・青森県内において、ESD や SDGs に関わる活動を行っている企業、教育機関、団体等がいるものの、横のつながりがなく、連携には至っていない。

●企画趣旨

- ・青森県で開催した東北 ESD/SDGs フォーラムのつながりを活かし、地域 ESD 拠点を中心とした分野を越えた組織・団体との連携、協働による ESD/SDGs の発展を考える。
- ・ESD 活動に取り組む関係者とともに、他地域の事例を参考にしながら東北らしい取り組みのあり方について意見交換を行なう。

●東北 ESD センターのアプローチ

- ・世代間のパートナーシップや協働によるアウトカムを考えるために、他地域の事例から具体的な取り組みを考える勉強会を企画した。
- ・中国地方 ESD 活動支援センターは広島県と連携し、大学生が起業を訪問して SDGs の視点から取り組みを発信するプロジェクトを展開している。ローカル SDGs を推進するための協働の仕組みの観点から話題提供をいただいた。

開催概要

催事名	あおもりの未来を異分野連携から考える
開催日	R3/12/14（火）
会場	ハイブリット開催 みどりやビル 8F 会議室（青森県青森市）
参加者	17 名
主催	東北地方 ESD 活動支援センター
内容	(1) 話題提供 「広島県 SDGs ビジネス セレクトブック制作プロジェクト ～世代間パートナーシップによる ローカル SDGs の推進～ 中国地方 ESD 活動支援センター統括 松原裕樹氏 (2) 全体ディスカッション ①それぞれの今後の活動・やりたいこと ②連携による活動の展開



広島県 SDGs ビジネスセレクトブック Vol.1 ～3

●事業総括

【成果】

- ・これまでつながりのなかった分野の関係者が集まり、それぞれの思いを共有することにより、新たな視点から意見交換を行うことができた。
- ・参加者からは「今後も継続して交流や情報共有の場を持ちたい」と発言があった。また、自治体や教育委員会にも参加いただき、ESD や SDGs を進めていく前向きな発言があった。ESD に取り組む関係者に対して活動の底上げを図るアプローチができたと考え。

【課題】

- ・本年度の取り組みを契機に形成されたネットワークが継続し、活動が発展するよう今後のフォローアップが課題となる。
- ・東北 ESD/SDGs フォーラムが大きな求心力となり、青森県内で学習の機会を設けたが、東北の他地域や地域 ESD 拠点への働きかけや、東北地域での横の連携をつなぎ学びの共有を設けていくことが課題となる。

9) その他

■ ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム連携会議

催事名	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム連携会議
開催日	R3/7/5 (月)、R4/1/17 (月)
会場	オンライン会議
内容	(1) 東北地方 ESD 活動支援センター 活動状況の共有 (2) ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 活動状況の共有 (3) 意見交換



ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム連携会議 (1/17)

Ⅲ - 3. 事業実施報告 (3) 東北地方環境事務所との協働

東北地方環境事務所との協働 (仕様書番号6)

東北地方環境事務所と定期的な打合せを行い、協働による EPO 東北事業の円滑な運営に努めた。

催事名	事業運営会議
開催日	第1回 R3/6/18 (金)
	第2回 R3/8/26 (木)
	第3回 R3/11/9 (火)
	第4回 R4/1/13 (木)
	第5回 R4/3/16 (水)
場所	EPO 東北 (宮城県仙台市)
参加者	東北地方環境事務所、(公財) みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、EPO 東北
内容	① EPO 東北事業の進捗確認 ② 意見交換



第3回事業運営会議 (11/9)

Ⅲ - 3. 事業実施報告 (4) その他 企業等との協働事業

1) (独) 環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

① 地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	R4/2/16 (水)
会場	オンライン会議
内容	(1) 2021・2022 年度の助成金要望・ 交付決定等の状況について (2) 全国/地方ユース環境活動発表大会 について (3) コロナ禍の環境市民活動の現状と支 援について

② 2022 年度地球環境基金 助成金オンライン説明会 (東北地区)

開催日	R3/10/25 (月)
会場	オンライン会議
参加者	15 名
主催	(独) 環境再生保全機構
企画運営	EPO 東北
内容	(1) 活動紹介:(公財) みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク 【話者】(一社) 日本キリバス協会 ケンタロ・オノ氏 (2) 2022 年度地球環境基金助成金説明 1) 概要説明 2) 要望書の書き方

Ⅲ - 3. 事業実施報告（４）その他 企業等との協働事業

2) GreenGift 地球元気プログラム（仕様書番号8）

●事業概要

東京海上日動火災保険（株）では、契約時に「契約のしおり（約款）」等をホームページでの閲覧をお客様に選択していただくことで紙資源の使用量削減に取り組み、削減額の一部で環境保護活動のサポートを実施している。

東京海上日動火災保険（株）の各地域部店が、地域の環境に関する親子対象の体験活動プログラム「Green Gift 地球元気プログラム」を提供している。本事業は10月から翌年9月までを年度の区切りとし、実施地域は東京海上日動火災保険（株）の各地域部店からの応募により、本店によって決定される。

2013年から取り組まれているプログラムは2019年9月で第3期が終了し、2019年10月から第4期の取り組みが始まっている。

各団体の役割

主催／各地域の環境 NPO
共催／日本 NPO センター
協力／各地方 EPO
協賛／東京海上日動火災保険（株）
後援／環境省

EPO の役割

① 実施団体候補の選定における情報提供と調整
東京海上日動火災保険（株）の各地域部店が連携・協働する実施団体を選定するにあたり、各地域部店から要望等をヒアリング後、候補となり得る環境 NPO 等を選出し、情報提供を行った。

② 環境 NPO と東京海上日動火災保険（株）
各地域部店の調整
各地域部店が実施団体の選定後、環境 NPO 等に事業の趣旨説明や参画依頼を行った。その後、環境 NPO と各地域部店が事業趣旨や実施の流れについて確認する顔合わせの場を調整した。

③ 企画・広報・実施のサポート
企画に際し、関係者の意見を反映できるよう促した。また、EPO 東北のウェブサイトやメールマガジンにて広報の協力を行った。当日は各地域部店の社員が参加するよう促し、運営スタッフとしてサポートを行った。

○第4期（2019年10月～2022年9月）実施団体

青森県	小川原湖自然楽校
岩手県	（一社）いわて流域ネットワーク
山形県	やまがたヤマネ研究会

○年間振り返り全国会議

開催日	R3/11/4（木）
会場	オンライン会議
内容	(1) 2021 年 年度活動方針・変更説明 (2) 2020 年 プログラム全体報告・評価 (3) グループワーク ① 2020 年度を振り返る ② 2021 年度に向けた意見・アイディア



「Green Gift 地球元気プログラム」とは
東京海上日動の「Green Gift」プロジェクトの一環として実施する国内環境保護活動。日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動と国内各地の環境NPOが協力して、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を各地で展開しています。環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことによって、持続可能な社会が実現することを目指しています。

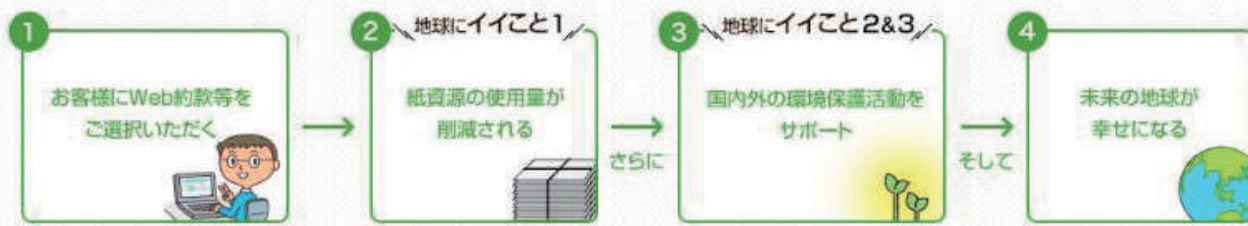
共催 日本NPOセンター 協賛 東京海上日動 後援 環境省



「Green Gift」プロジェクトの概要

東京海上日動では「お客様とともに環境保護活動を行うこと」をコンセプトに、「Green Gift」プロジェクトを通じて地球環境保護に取り組んでいます。

- ・お客様に「ご契約のしおり（約款）」等を紙の冊子ではなく、ホームページ上で閲覧いただく「Web約款」等をご選択いただくことにより、紙資源の使用量を削減。
- ・紙資源使用量削減額の一部の寄付を通じて、マングローブ植林をはじめとした国内外の環境保護活動をサポート。



Green Gift 地球元気プログラムウェブサイトより

● 2019 年度（2019 年 10 月～ 2020 年 9 月）

実施都道府県①青森県

実施団体：小川原湖自然楽校

小川原湖の自然環境を知るため、小川原湖の北部にあるマテ小屋をはじめ、小川原湖の北部をカヌーで巡りながら、汽水域の生態系の観察を行うプログラムを実施した。

タイトル	小川原湖の北部をカヌーで巡ってみよう！
開催日	R3/8/29（日）
場所	青森県小川原湖北部
参加者	親子 10 名
感想 （抜粋）	・初めて見た生き物（オジロワシやボウ）や建物（マテ小屋）に感動しました。 ・オジロワシがトビに追いかけているのを見て、生き物のなわばり意識の強さを感じた。



小川原湖の北部をカヌーで巡ってみよう！ (8/29)

実施都道府県②岩手県

実施団体：（一社）いわて流域ネットワーク

盛岡市民にも親しまれる中津川で、水生生物を採取して水質判定を行い、親子で川の環境について考えるプログラムを実施した。また川遊びに潜む水辺の危険を学び、事故から身を守る水辺の安全教室も実施した。

タイトル	親子で水辺体験！「中津川で環境学習と川遊び」
開催日	R3/7/18（日）
場所	岩手県盛岡市中津川
参加者	親子 13 名
感想 （抜粋）	・直接つながっているわけではないが、一つ一つつながっているとわかった。 ・川の虫や魚をたくさん見つけられた。



親子で水辺体験！「中津川で環境学習と川遊び」 (7/18)

実施都道府県③山形県

実施団体：やまがたヤマネ研究会

新型コロナウイルス感染対策として、イベント実施ではなく環境体験ツールの開発を行った。山形の自然や野生動物を身近に楽しみながら知ってもらいたいという思いから、団体登録の市民レンジャー＆山形大学大学生と一緒に「いつでも・だれでも学べて楽しめる」カードゲーム開発を行った。

ツール名	YAMA-MONO コネクション
体験者の感想 （抜粋）	・今まで知らなかった生物の分布についても知ることができました。 ・山形にもこんなに絶滅危惧種があったとは驚きです。 ・ゲームをするなかで、自然と動植物を学べた。



カードゲーム体験会の様子

Ⅲ - 3. 事業実施報告（４）その他 企業等との協働事業

3）青森県 令和3年度環境配慮行動拡大モデル事業（仕様書番号8）

●事業概要

環境問題に関心の薄い県民に関心を持ってもらい、環境配慮行動を実践してもらうためには動機づけが必要であるとの考えのもと、青森県が企画を公募してモデル事業を実施した。

環境の保全を図る活動を主た目的としていない団体が配慮行動をプラスしてモデル事業を実施することにより、団体及び県民が普段行っている取組が環境とつながっていることを理解し、取組みを推進することで地域における環境配慮行動の拡大につなげていくことを目的としている。

●コーディネート業務

- ①企画提案競技における審査
- ②ワークショップでの情報提供
- ③取り組み実施に関する助言
- ④アフターミーティングでの助言

【実施団体】3 団体

団体名	事業名
津軽海峡マグロ女子会下北支部	中高生といっしょに海と心のおそうじ☆ビーチクリーン・ヨガ
青森朝日放送株式会社	ABA むつ湾を守ろう！プロジェクト
(株)日本旅行東北青森支店	リデュース・リユース・リサイクル「3R 循環型社会を知ろう・学ぼう・考えよう」

●ワークショップにおけるコーディネート業務

モデル事業実施団体が取組実施にあたり、ワークショップにおいて「環境視点」や「SDGs」に関する情報提供や助言等を行った。

①津軽海峡マグロ女子会 下北支部

開催日	R3/6/29（火）
場所	風間浦村下風呂公民館（青森県風間浦村）
参加者	9 名
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「2030 年の津軽海峡マグロ女子会の目指す姿」 ・現在の地域課題 ・2030 年の地域のありたい姿、マグロ女子会のありたい姿 ・マグロ女子会プログラムの進化 (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答

②青森朝日放送株式会社

開催日	R3/7/2（金）
場所	オンライン会議
参加者	9 名
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「市民による、環境配慮行動拡大とマスメディアの果たすべき役割～沿岸清掃活動を題材にして～」 【ディスカッション】 ・活動を通じて何を伝えたい？ ・活動をどう発展させたい？ (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答

③株式会社日本旅行東北 青森支店

開催日	R3/8/5（木）
場所	青森県庁議会棟 1 階 A 会議室（青森県青森市）
参加者	8 名
内容	(1) モデル事業概要説明 (2) 環境視点・SDGs についての話題提供 (3) ワークショップ「サステナブルなツアーを考えよう！」 (4) ワークショップを踏まえたモデル事業の検討 (5) 質疑応答



青森朝日放送株式会社ワークショップ（7/2）

●アフターミーティングにおけるコーディネート業務

取組みの振り返りを行うアフターミーティングにおいて、情報提供や助言等を行った。

①津軽海峡マグロ女子会 下北支部	
開催日	R3/11/10（水）
場所	風間浦村下風呂公民館（青森県風間浦村）
参加者	9名
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・イベント参加者の変容や反響 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討

②青森朝日放送株式会社	
開催日	R3/11/17（水）
場所	オンライン会議
参加者	6名
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・放送を受けて変容や反響 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討

③株式会社日本旅行東北 青森支店	
開催日	R3/11/18（木）
場所	県庁議会棟3階小会議室（青森県青森市）
参加者	6名
内容	(1) 取組報告 (2) 意見交換「環境配慮行動の継続・拡大に向けて」 ・ツアー参加者の変容や反響 ・これまでの活動と違う視点を入れた活動での気づき ・継続して取組める手ごたえ ・自分たちの活動と「環境」「SDGs」 (3) 事業報告会における発表の検討



津軽海峡マグロ女子会下北支部ワークショップ（6/29）



津軽海峡マグロ女子会下北支部ワークショップ（6/29）

東北環境パートナーシップオフィス 運営第5期 令和3年度事業実施報告書（2021年度）
発行：令和4年3月31日

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F
OPEN 9：30－18：00（月～金）



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：https://www.melon.or.jp/index.html